

高文連



も く じ

山口県高等学校文化連盟の紹介	1
ごあいさつ	5
第41回山口県高等学校総合文化祭総合開会式（音楽4部門発表会）の報告	6
各部門の報告	
演劇部門	8
合唱部門	10
吹奏楽部門	12
器楽・管弦楽部門	14
日本音楽部門	15
マーチングバンド・バトントワリング部門	17
美術・工芸部門	18
書道部門	21
写真部門	23
放送部門	26
囲碁部門	28
将棋部門	31
小倉百人一首かるた部門	33
文芸部門	37
自然科学部門	41
全国高等学校総合文化祭に参加して	45
自主事業補助事業の報告	46
参考資料	
令和元年度 山口県高等学校文化連盟 事業報告	55
令和元年度 山口県高等学校文化連盟会計決算書	56
令和2年度 山口県高等学校文化連盟 事業計画	57
令和2年度 山口県高等学校文化連盟 会計予算書調整基金会計予算書	58
山口県高等学校文化連盟規約	59
山口県高等学校文化連盟諸規程	62
山口県高等学校文化連盟表彰規程	63
山口県高等学校文化連盟旅費支給基準	64
令和元2年度 山口県高等学校文化連盟役員一覧	65
全国高文連の歌	67

山口県高等学校文化連盟の紹介

山口県高等学校文化連盟には16の専門部会があります

演劇／合唱／吹奏楽／器楽・管弦楽／日本音楽／マーチングバンド・バトントワリング／吟詠剣詩舞／美術・工芸／書道／写真／放送／囲碁／将棋／小倉百人一首かるた／文芸／自然科学

2019年度第41回山口県高等学校総合文化祭開会式は、宇部市渡辺翁記念会館で行われました。各部門の大会は、5月の小倉百人一首かるたと将棋を皮切りに、県内各地で行われました。

2019年7月27日～8月1日、佐賀県にて第43回全国高等学校総合文化祭が行われました。山口県からは、県総文で選ばれた代表が出場しました。代表生徒が多数出場しました。

【演劇】



演劇講習会



中国大会（全国高等学校演劇協議会会長賞）山口高等学校

【合唱】



県総文 慶祝演奏 合同合唱



佐賀総文 山口県代表 梅光学院高等学校

【吹奏楽】



県総文 慶祝演奏 宇部地域高等学校吹奏楽団



佐賀総文 山口県代表 防府高等学校

【器楽・管弦楽】



佐賀総文 山口県代表 下関南高等学校

【日本音楽】

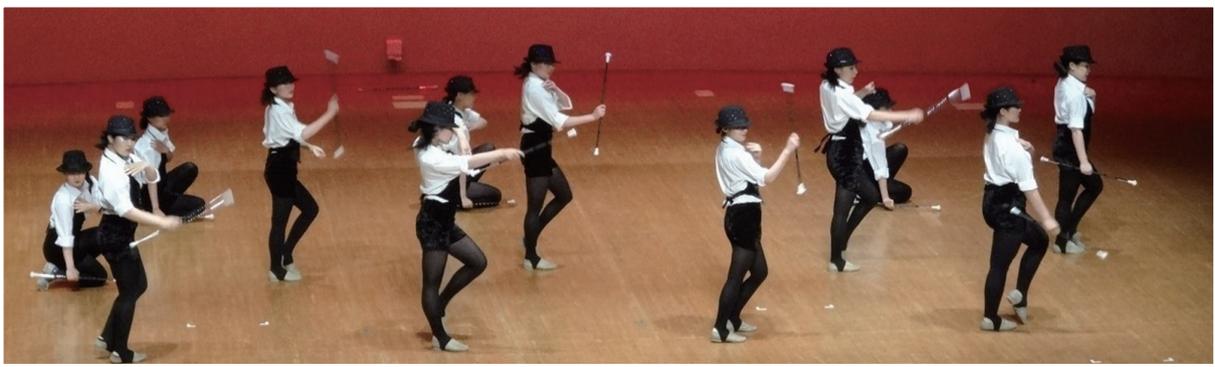


県総文 慶祝演奏 宇部鴻城高等学校



佐賀総文（郷土芸能部門）山口県代表 早鞆高等学校

【マーチングバンド・バトントワリング】



県総文 慶祝演奏 慶進高等学校

【美術・工芸】



県総文 講評会



佐賀総文

【書道】

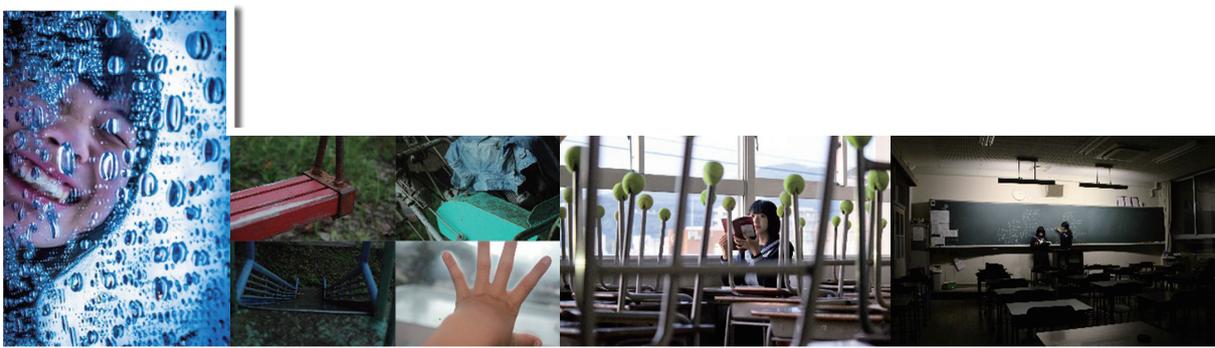


第21回山口県高文連書道部会生徒研修会



佐賀総文 山口県代表生徒

【写真】



佐賀総文 出品作品

【放送】



佐賀総文 朗読部門（優秀賞）



佐賀総文 山口県代表生徒

【囲碁】



中国大会



佐賀総文 山口県代表生徒

【将棋】



県総文 対局風景



佐賀総文 山口県代表生徒

【小倉百人一首かるた】



全国高等学校小倉百人一首かるた選手権大会



佐賀総文 山口県合同チーム

【文芸】

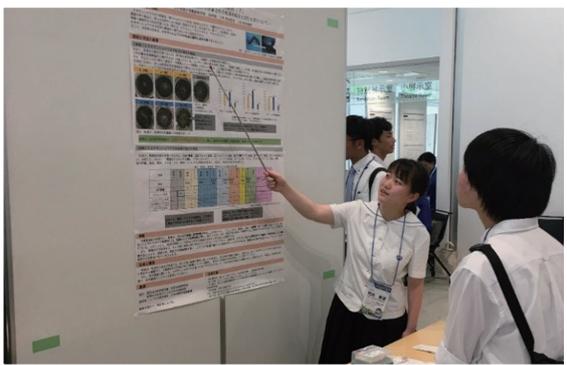


全国高等学校文芸コンクール



佐賀総文 山口県代表生徒

【自然科学】



佐賀総文 ポスター発表



佐賀総文 研究発表（地学）



ご あ い さ つ

山口県高等学校文化連盟

会 長 開 地 元 典

皆様の御協力のもと、ここに令和元年度の山口県高文連の歩みを記した集録ができあがりましたことに感謝申し上げます。本連盟は昭和62年6月に発足し、31年を超える歴史をもっています。本連盟の活動は、県内外のさまざまな文化・芸術活動への参加の拠点として、高校生の創造力の育成と豊かな心の醸成を行うことであり、今後も、各学校の文化部活動をつなぐ役割を果たしながら、高校生のさまざまな文化芸術活動を支援していきますので、引き続き御理解と御支援をよろしくお願いいたします。

さて、新しい時代「令和」が幕開けしました。「人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つ」という思いが、この「令和」には込められているということです。このような中、第41回山口県高等学校総合文化祭は、「広げよ 創造の大河 築け 未来への架け橋」をテーマに開催されました。日々、お互いに助け合いながら、文化芸術活動に励み、みずみずしい感性で、それぞれ自分らしい表現を追求し、「創造の大河」を広げ、自分らしく発表することにより、「未来への架け橋」を築く新たな担い手として、高校生たちからは多くの可能性を感じさせられました。また、6月13日には、小野田高校を主管として、総合開会式が宇部市において盛大に開催されました。当日は、近隣の高校生が多く会場を埋め、力強く情熱にあふれる高校生の合同演奏を楽しみました。代表生徒の堂々としたあいさつ、慶祝演奏、慶祝展示は、高校生の情熱と力強さを感じさせる、見応え、聞き応えあるすばらしいものでした。

各専門部の大会は、5月の将棋部門、百人一首かるた部門をスタートとし、11月の美術・工芸部門の大会まで、7か月にわたって県内各地で開催されました。日頃、熱心に取り組み、苦勞して作り上げた作品、妥協することなく練習を繰り返した演奏、技能だけでなく心も鍛えて臨んだ対戦等を、余すことなく発表することで、一層のレベルアップを図ることができたことと思います。また、多くの学校が集うことで、生徒同士の貴重な交流の場となったのではないのでしょうか。さらに、講師や審査員として各分野の専門家が直接指導に当たってくださるので、文化・芸術の深みに触れる機会ともなりました。このように大きな成果を生んだ各大会を運営されました主管校や顧問の先生方に、この場を借りてお礼申し上げますとともに、今後も一層充実した大会にさせていただきますよう、お願い申し上げます。

7月末からは第43回全国高等学校総合文化祭（佐賀総文）が開催され、本県からは13部門、204名が参加しました。豊かな自然に恵まれ、近代日本をリードし、歴史と特色ある文化を受け継いできた佐賀の地で、全国のレベルを体感しつつ、のびのびと持てる力を十二分に発揮して、すばらしい演奏や競技、作品展示をしてくださいました。また、他県の生徒たちとの交流も深めて、大きく成長してくれたものと思っています。ここで学んだ全国の文化を日々の活動に活かし、県内に広めるとともに、次年度の高知大会ではさらなる成果が生まれるよう頑張ってください。

そのほか、本連盟では高校生が優れた文化や芸術に直接ふれあって感性を高めることを目的に、自主文化事業や補助事業を企画し、希望の学校で開催しています。今後も、高校生の希望を取り入れながら、より多くの学校に参加していただける文化・芸術活動を積極的に企画していきたいと考えておりますので、ぜひ積極的に御活用をお願いいたします。

終わりに、本連盟の活動に御支援、御協力を賜りました関係者の皆様に心から感謝し、厚くお礼申し上げます。発刊の御挨拶といたします。

総合開会式(音楽4部門発表会)の報告

主管校 玉木 陽子
(山口県立小野田高等学校教諭)

総合開会式(音楽4部門発表会)の記録

令和元年6月13日(木)～15日(土)、宇部市渡辺翁記念会館を会場に「広げよ 創造の大河 築け 未来への架け橋」のテーマの下、第41回山口県高等学校総合文化祭総合開会式並びに音楽4部門発表会が開催された。

総合開会式は山口県立小野田高等学校を主管校として、また音楽4部門発表会は山口県立宇部西高等学校を主管校として宇部・長南地区関係高等学校の協力により、無事に終わることができた。

代表して、生徒会長の川崎唯さんが挨拶し、そして、久保田后子宇部市長から歓迎の言葉をいただき、来賓紹介を経て、最後に優秀芸術文化賞、功績賞、テーマ最優秀賞の表彰を行なった。

第41回山口県高等学校総合文化祭
総合開会式(6月13日(木)) 13時30分～ 宇部市渡辺翁記念会館

演劇部門	小野田一人一音からた部門	音楽4部門	日本音楽部門
演劇部(10)	小野田高等学校	吹奏楽部(15)	吹奏楽部(15)
文芸部門	読書部門	演劇部門	書道部門
文芸部(10)	宇部高等学校	演劇部(12)	書道部(12)
写真部門	放送部門	美術・工芸部門	
写真部(10)	放送部(10)	美術部(17)	
音楽4部門	吹奏楽部(15)	演劇部(12)	
吹奏楽部(15)	吹奏楽部(15)	演劇部(12)	

主催/山口県高等学校文化連盟・山口県・山口県教育委員会 後援/山口県中学校文化連盟

県総文ポスター

6月13日に実施された総合開会式は、宮川史也(小野田高校)さんの開会宣言と宇部地区高等学校吹奏楽団によるファンファーレでスタートした。まず、映像とナレーションにより、山口県高等学校文化連盟の演劇や器楽・管弦楽等、16部門からなる専門部の紹介と自主事業等、山口県高文連の活動紹介を行った。その後、主催者を代表して山口県高等学校文化連盟会長及び山口県教育委員会教育長が挨拶を行い、続いて主管校である小野田高校を



開会宣言



山口県高等学校文化連盟会長挨拶



総合開会式 主管校生徒代表挨拶

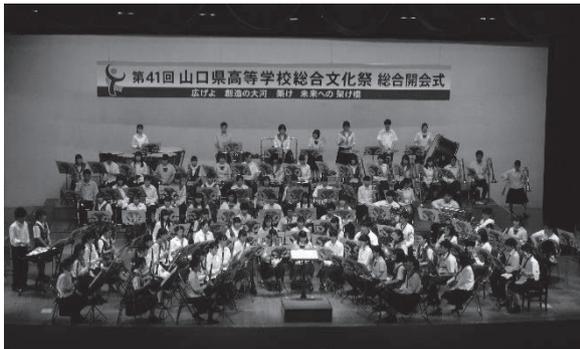
慶祝演奏は、宇部鴻城高校の太鼓部、慶進高校のバントワリング、宇部地区高等学校吹奏楽団、山口県高等学校管弦楽団・合唱団が披露した。いずれの団体も総合文化祭にふさわしい演奏・演技で会場を大いに沸かせた。最後は、ステージと客席全員でオーケストラ伴奏による「翼をください」を合唱し、総合開会式は幕を閉じた。



慶祝演奏 太鼓 宇部鴻城高校太鼓部



慶祝演奏 バントワリング 慶進高等学校



宇部地区高等学校吹奏楽団



山口県高等学校管弦楽団・合唱団

慶祝展示は、渡辺翁記念会館ロビーで、県内の高校生による、美術・工芸、書道、写真の力作を展示した。また、演劇、囲碁等、5部門の専門部の大会風景等の活動写真パネルも展示し、文芸部門からは優れた文芸誌が出品された。展示は、音楽4部門発表会が開催された期間も引き続き行なわれ、多くの来場者によって観覧された。



美術・工芸作品展示風景



書道作品展示風景



写真作品展示風景

音楽4部門発表会では、6月14・15日の2日間にわたって、66団体、出演者総数2,046名が演奏・演技を披露した。日頃の練習の成果を存分に発揮し、充実した時間となった。両日も、最後に、ステージと客席全員で「翼をください」を合唱し、高揚感が会場全体を包んだ。

総合開会式、音楽4部門発表会ともに無事終わることができた。御協力いただいた関係各位に、心よりお礼申し上げます。

各部門の報告

演劇部門

理事長 近藤 真美
(山口県立防府西高等学校教諭)

1 演劇部門活動報告

(1) 演劇講習会

5月26日(日)

山口県鴻城高等学校体育館

〈講師〉 金井大道具より4名招聘

(中村知子氏、高柳和士氏、岡田裕一氏、中村周平氏)

〈参加者〉 17校から161名の生徒と19名の顧問

〈準備物〉 指示された木材を各校購入、切って持参。

〈内容〉 「大道具の仕事～普通じゃないからおもしろい!」

講習会①…セミナー【大道具の仕事とは】

- ・大道具の“係り”の分け方と仕事の特徴
- ・大道具を安く仕上げるには
- ・作品を選んだ後、どのように大道具を決めるのか



講習会②…実演【台を作るルールとコツ】

～パネルや平台にも応用がきく「台」の作り方をマスターしましょう～



(2) 演劇指導者講習会

7月3日(水)

山口南総合センター

〈講師〉 伊藤 馨氏(照明家、Otti オッティ代表)

〈参加者〉 12校から15名の顧問

〈準備物〉 共通教材: DVDと照明プランの配付
(光丘高校と下関中等教育学校の2作品)

〈内容〉 ①照明の設備と機材・仕込みと打ち込み
②効果的な照明プラン(共通教材使用)

(3) 第43回全国高等学校総合文化祭(演劇部門) 第65回全国高等学校演劇大会(佐賀大会)

7月27日～29日

鳥栖市民文化会館

今年度、山口県から全国大会に推薦された上演校および生徒講評委員はなかったものの、近県開催の好機を逃すまいと、多くの演劇部員が佐賀県に出向き、全国の仲間と交流を楽しみつつ演劇を熱く学びました。

〈主な活動〉

- ①全国代表12校の上演に観客として参加する。
- ②感想をボードに書き、上演校に感想を届けるとともに、他の観客と感想を共有する。
- ③優秀生徒講評委員による公開討議を傍聴する。
- ④審査員の各上演の講評から劇作のポイントを学ぶ。
- ⑤事前にハガキ予約した6分科会からなる講習会のどれかに参加し、一線で活躍する講師の指導を賜る。

(4) 第41回山口県高等学校総合文化祭(演劇部門)

山口県各地区高等学校演劇協議会演劇発表会

周防地区 8月24日 山口県民文化ホールいわくに

山防地区 8月10日 山口南総合センター

宇部地区 8月18日 不二輸送機ホール

下関地区 8月8日・9日 下関市生涯学習プラザ

県内4地区で、合計23校が上演しました。そのうち、14校が創作脚本による上演に挑みました。

(5) 第41回山口県高等学校総合文化祭(演劇部門)
第38回山口県高等学校演劇大会

10月26日・27日

山口県民文化ホールいわくに(シンフォニア岩国)

今年度から講師2名による講評というスタイルを導入し、講評の時間がより充実して感じられました。3年連続で講師をお引き受け下さった篠原久美子先生の心強いご助言を得ながら、山口県高校演劇は一步一步望ましい方向に進化していると感じています。

賞(4位)]を受賞しました。



山口高校「Change My World」

(6) 第57回中国地区高等学校演劇発表会

12月21日・22日

島根県民会館中ホール

中国5県の代表11校が上演し、島根県の三刀屋高校が最優秀賞を受賞し、来年度の高知総文への出場権を獲得しました。山口県代表の2校も高く評価され、山口高校が「全国高等学校演劇協議会会長賞(2位)」と「創作脚本賞」を受賞し、3月に新潟県で行われる「春フェス」への出場権を得ました。光丘高校も「松江市教育委員会教育長



光丘高校「たらちねりあん」

2 第41回山口県高等学校総合文化祭(演劇部門)・第38回山口県高等学校演劇大会記録

◎は最優秀校(中国大会出場) ○は創作脚本賞 ※は創作

華陵高等学校	チェンジ・ザ・ワールド	石原 哲也/作、華陵高校舞台芸術部/潤色
下関商業高等学校	※感情プロジェクト	古川 晋太郎/作
宇部中央高等学校	人形姫	益村 梨沙/原作、伊藤 幸加・宇部中央高校演劇部/脚色
西京高等学校	※タユタウ	西京高校演劇部/作
下関西高等学校	オフライン	島仲 こすも/作、下関西高校演劇部/潤色
◎山口高等学校	※Change My World	川上 そよ香/作、山口高校演劇部/潤色
○防府西高等学校	※まきーにゃの空	防府西高校演劇部/作
サビエル高等学校	※おもいあい	大橋 潤都/作
下関中等教育学校	※死んでもパスタ	あずまや太郎/作
◎光丘高等学校	※たらちねりあん	緋岡 篝/作

生徒講評部門最優秀賞(中国大会出場) 青木ゆり子(新南陽高校)・菊崎結子(岩国総合高校)

講師・審査員

篠原 久美子 (劇団劇作家代表、日本劇作家協会理事、昭和音楽大学非常勤講師)

泊 篤志 (「飛ぶ劇場」代表、劇作家、演出家)

福元 美雪 (宇部フロンティア大学付属香川高等学校教諭、演劇部顧問)

合唱部門

理事長 田 中 睦
(野田学園高等学校教諭)

山口県高等学校文化連盟合唱部門では、今年度次のような事業を行いました。

1 活動報告

- (1) 山口県高等学校合唱講習会
 - ・令和元年5月25日(土)
 - ・講師/清水 雅彦 先生(声楽家・合唱指揮者)
 - ・内容/山口県総合文化祭慶祝演奏の合同練習及び演奏技術向上のための講習会
 - ・会場/山口市民会館小ホール

- (2) 令和元年度第41回山口県高等学校総合文化祭総会開会式において慶祝演奏
 - ・6月13日(木)
 - ・山口県高等学校管弦楽団との合同演奏
 - ・曲目/「フィンランディア賛歌」
「カンタータ《土の歌》より「大地讃頌」」
 - ・山口県高等学校合唱団/9校 213名
 - ・会場/宇部市渡辺翁記念会館

- (3) 令和元年度第41回山口県高等学校総合文化祭音楽4部門発表会
 - ・6月14日(金)、15日(土)
 - ・合唱部門出演者/9校 222名
 - ・会場/宇部市渡辺翁記念会館

- (4) 第43回全国高等学校総合文化祭・2019さが総文
 - ・8月1日(木)
 - ・参加校/梅光学院中学校・高等学校
 - ・会場/鳥栖市民文化会館

- (5) 令和元年度山口県高等学校文化連盟合唱部会及び研修会
 - ・令和2年1月17日(金)
 - ・出席者/部会長以下10名
 - ・議題/県総文、全総文、高文連表彰などについて
 - ・会場/野田学園高等学校 小会議室

2 山口県高等学校総合文化祭の記録

会場:宇部市渡辺翁記念会館

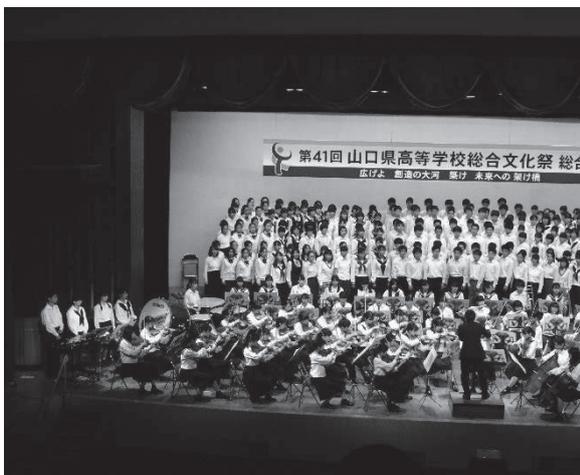
令和元年度第41回山口県高等学校総合文化祭総会開

会式が、6月13日(木)「宇部市渡辺翁記念会館」にて盛大に開催されました。例年のように、器楽・管弦楽部門と合唱部門と合同で慶祝演奏に参加しました。オーケストラと共に、9校213名の大合唱は、広い会場に美しく響き渡りました。生徒たちの熱い気持ちの入った、高校生らしいさわやかな歌声は、満員の聴衆の方々にも深い感銘を与えたことと思います。日頃小人数で部活動をしている生徒が多いため、他校との合同合唱は勿論のこと、オーケストラとの共演はととても貴重な体験になりました。

また、翌日からの2日間で行われた音楽4部門の発表会は、高校生の気迫あふれる演奏が続きました。今年度の合唱部門出演校は、昨年度から大幅増の9校222名が参加し、各校個性豊かな演奏を披露しました。

生徒数の減少や指導者不足等の問題から合唱人口は年々減少しておりますが、この総合文化祭を契機に各校の生徒同士が切磋琢磨して、より質の高い音楽を奏でられるように願っています。来年度の「下関市民会館」でも、素晴らしい演奏を期待しています。





慶祝演奏の様子

3 全国高等学校総合文化祭の記録

梅光学院高等学校 3年 川崎 幸

梅光学院中学校・高等学校合唱部 チャペル・クワイヤは、初めて全国総文合唱部門に参加させていただきました。こうした全国規模の文化祭に山口県代表として選んでいただいたという誇りと緊張を胸に、開催地の佐賀県へ出発しました。

今回私達は、「Gabriel Archangelus」「明日香皇女への挽歌」の2曲を演奏しました。2曲ともアカペラで、繊細で神秘的なハーモニーが特徴です。そのハーモニーを美しく響かせるため、部員一同丁寧に練習を重ねてきました。また、私達は17人という少人数での参加なので、一人ひとりがしっかりと声を届ける事も意識しました。他校の演奏を聞いて、どの学校も都道府県の代表にふさわしい素敵な演奏でした。学校によって選曲から演出まで個性があり、音だけでなく視覚でも楽しめました。中でも100人を超える合唱団の演奏は、迫力満点で驚きました。また、地元につながる歌を選曲していた学校が印象に残っています。

舞台裏では、誘導係として私達をサポートしてくださった現地の高校生とお話が出来ました。地元のことや合唱について話し、合唱を通してこのような貴重な経験が出来た事を嬉しく思います。

こうしてたくさん的高校生が合唱を通して巡り会い、互いの演奏を聴いて高めあえる、そんな素敵な総文祭に参加させていただけた事に感謝しています。本当にありがとうございました。



梅光学院中学校・高等学校チャペル・クワイヤ

4 その他

全日本合唱コンクール中国合唱コンクールにおいて、野田学園高等学合唱部が金賞並びに広島県教育長賞を受賞し、全国大会へ出場しました。野田学園高等学校は昨年度も全国大会へ出場しており、これで8年連続山口県勢が全国大会へと出場を果たしたことになります。山口県内の合唱部の活動が、今後益々活発になるよう願ってやみません。

各部門の報告

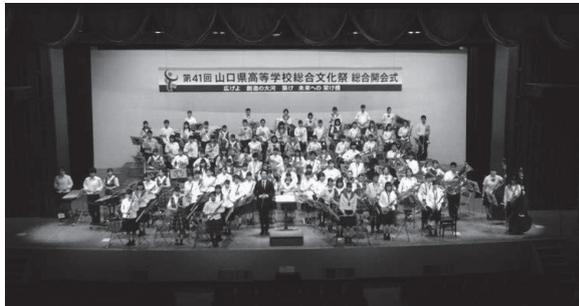
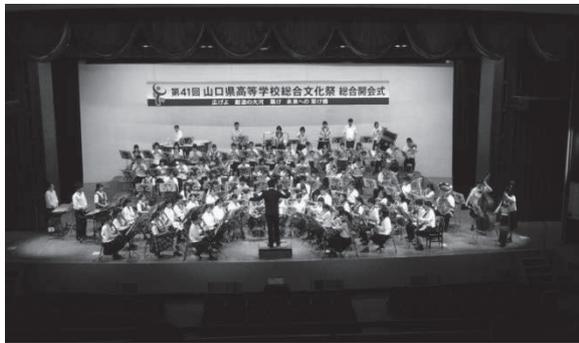
吹奏楽部門

理事長 中村 亮

(山口県立光高等学校教諭)

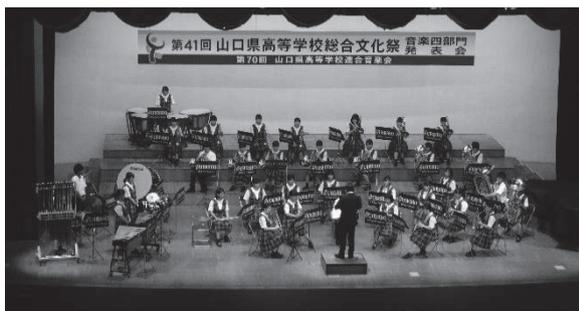
1 平成31年度の吹奏楽専門部の活動報告

- (1) 第41回山口県高等学校総合文化祭総合開会式典における慶祝演奏
- ・開催日 令和元年6月13日(木)
 - ・会場 宇部市 渡辺翁記念会館
 - ・参加演奏 宇部地域高等学校吹奏楽団
(宇部、宇部商業、宇部西、小野田、厚狭、慶進、宇部鴻城、宇部フロンティア大学付属香川)
 - ・演奏曲目 もののけ姫セレクション(久石 譲 作曲/森田 一浩 編曲)
 - ・指揮 中村 一(小野田高等学校)



総合開会式 慶祝演奏 宇部地域高等学校吹奏楽団

- (2) 第41回山口県高等学校総合文化祭音楽4部門発表会・第70回山口県高等学校連合音楽会
- ・開催日 令和元年6月14日(金)、15日(土)
 - ・会場 宇部市 渡辺翁記念会館
 - ・参加演奏 51団体 1,500余名



音楽4部門発表会・山口県高等学校連合音楽会

- (3) 第43回全国高等学校総合文化祭
- ・開催日 令和元年7月31日(水)、8月1日(木)
 - ・会場 佐賀県佐賀市 佐賀市文化会館
 - ・参加演奏 山口県立防府高等学校(1日目 プログラム7番)
 - ・演奏曲目 シンフォニエッタ第3番「響きの森」(福島弘和作曲)
ディスコ・キッド1977(東海林修作曲)
 - ・指揮 上田 憲明(防府高等学校)
- (4) 吹奏楽専門部総会・研修会
- ・開催日 令和元年12月3日(火)
 - ・会場 光市民ホール 大会議室・大ホール
 - ・参加人数 35名
 - ・講師 山口 大輔 先生(打楽器奏者)

2 山口県高等学校総合文化祭の記録

平成31年度第41回山口県高等学校総合文化祭総合開会式が、6月13日(木)に宇部市の渡辺翁記念会館で開催されました。開会式典での慶祝演奏には、山口県立小野田高等学校の中村一先生指揮・指導の下、宇部、宇部商業、宇部西、小野田、厚狭、慶進、宇部鴻城、宇部フロンティア大学付属香川、各高等学校の生徒総勢約90名が、本専門部を代表して参加いたしました。本番では、『自然と人間の関係をテーマとし続けてきた宮崎駿の集大成的な作品』と評されるジブリ映画「もののけ姫」より、オープニングとエンディングで流れる「アンタカせつ記」、迫るような打楽器・木管楽器の細かい動きがその不気味さを増幅させる「TA・TA・RI・GAMI」、カウンターテナー歌手米良美一のデビュー曲であり、誰もが一度は耳にしたことのある名曲「もののけ姫」の3曲がメドレーとなった「もののけ姫セレクション」を演奏いたしました。映画で表されている雄大さ、緊迫感、感動をそのままに、それぞれの場面を見事に表現した素晴らしい演奏でした。

また、6月14日(金)と15日(土)には、同会場において音楽4部門発表会を開催いたしました。この2日間で、51団体、1,500余名が日頃の練習の成果を発揮し、立派な演奏を披露いたしました。この発表会を通して、同じ意識を持つ多くの仲間存在に気づくとともに、新たな音楽の表現を創造する意識が高まることを期待しています。

3 全国高等学校総合文化祭吹奏楽部門参加報告

山口県立防府高等学校吹奏楽部

部長 小川 結子

私たち防府高校吹奏楽部は、7月31日に佐賀県で開催された第43回全国高等学校総合文化祭・2019さが総文に参加させていただきました。これまで佐賀県のことはよく知りませんでしたが、吉野ヶ里遺跡をはじめ古代からの歴史遺産が多くあることや、自然が豊かなところは防府に似ていて親近感が湧きました。

私たちは1日目に出演させていただき、吹奏楽コンクールの自由曲でもある、シンフォニエッタ第3番「響きの森」(福島弘和)と、ディスコ・キッド(東海林修)を演奏しました。今回が初めての県外での演奏だった部員が多くおり、出場が決まったときから非常に楽しみでもあり緊張もしていました。本番直前のチューニング室では吹奏楽部会理事長の中村先生から激励のお言葉をいただき、緊張も少しほぐれて本番へ向けての気持ちが高まりました。本番の舞台はとても広く、お客さんも多く驚きました。演奏前のインタビューでは山口の方言を使って演奏の意気込みを述べました。日頃あまり方言を使わないため少したどたどしくもありましたが笑顔で元よく話すことができましたと思います。演奏では、響きの森は少し固くなってしまった部分もありましたが精一杯心を込めて演奏しました。ディスコ・キッドではお決まりの「ディスコ！」のシャウトとともにとても楽しく演奏

することができました。そして、講師の八木澤教司先生と川内優子先生から私たちの良さをたくさん見つけていただいたことは大きな収穫となりました。

また、全国各地から集まった高校生たちの様々な工夫を凝らした演奏を聴くことができました。特に、その地域のお祭りを吹奏楽と踊りで再現していた団体や非常に面白い演出で会場を沸かせた団体などは吹奏楽の枠を越えたパフォーマンスでとても楽しかったです。演奏面、演出面ともにどの団体もレベルが高くとても勉強になりました。

演奏以外の面では、実行委員の皆さんの準備や大会運営の質の高さに圧倒されました。本番前日の練習会場では細部にわたり徹底された準備や配慮により私たちは何一つ不自由なく練習することができました。また、舞台進行アナウンスの方は山口県についてとても詳しく調べられており、長い時間をかけて入念に準備されてきたのだと感じました。このような運営の方々のが総文に対する熱意により素晴らしい全国高総文祭になったのだと思います。

今回の総文祭出場に際し多くの方々のお支えをいただき、感謝の気持ちでいっぱいです。また、この総文祭を通じて私たちの課題もたくさん見つかりました。この貴重な経験を一切無駄にせず、更に高いレベルを目指して日々の練習に励んでいきたいと思っています。ありがとうございました。



山口県立防府高等学校吹奏楽部

各部門の報告

器楽・管弦楽部門

理事長 秋 本 隆
(山口県立下関南高等学校教諭)

山口県高等学校文化連盟器楽・管弦楽部門では今年度、次のような事業を行いました。

1 令和元年度第41回山口県高等学校総合文化祭総開会式における合唱部門との合同による慶祝演奏

期 日: 令和元年6月13日(木)
会 場: 宇部市渡辺翁記念会館
演奏曲目: 佐藤 眞作曲 カンタータ《土の歌》より“大地讃頌”
シベリウス作曲 交響詩《フィンランディア》
村井 邦彦作曲《翼をください》
指 揮: 松田 廉遵(宇部鴻城高等学校)
演 奏: 山口県高等学校管弦楽団・合唱団

2 令和元年第41回山口県高等学校総合文化祭音楽関係4部門発表会

期 日: 令和元年6月14日(金)、15日(土)
会 場: 宇部市渡辺翁記念会館
演奏種目: 参加各校によるオーケストラ、弦楽合奏、マンドリン合奏の演奏
参加人数: 6校/283名

3 第43回全国高等学校総合文化祭(2019さが総文)

期 日: 令和元年7月28日(日)、29日(月)
会 場: 佐賀県佐賀市 佐賀市文化会館
参 加 校: 山口県立下関南高等学校
演奏曲目: ヨハン・シュトラウス作曲/喜歌劇「こもり」序曲

今年度の全国高等学校総合文化祭(2019さが総文)では、本県代表の山口県立下関南高等学校管弦楽部が素晴らしい演奏を披露いたしました。本県の器楽・管弦楽部門のレベルは全国的に見ても非常に高いものがあり、次年度以降ますます発展していくことと期待しています。

「第43回全国高等学校総合文化祭佐賀大会」器楽・管弦楽部門代表 山口県立下関南高等学校管弦楽部 部長 徳田 帆南

このたび、私たち下関南高校管弦楽部は山口県代表として「第43回全国高等学校総合文化祭2019さが総文」に参加させていただきました。学校としては6年ぶりの全国大会参加となりますが、顧問の秋本先生や部員全員にとっては何分初めての全国大会参加ということで、期待と不安が入り交じった気持ちで出発しました。

この大会に向けて、直前の学校合奏コンクールで演奏したヨハン・シュトラウス作曲の喜歌劇「こもり」序曲を演奏することを決め、1年生を含めて全員で練習に取り組みました。1年生にとってはそのほとんどが初心者であり技術的にはとても高いハードルではありましたが、引退直前の3年生と演奏する最後のステージでもあり、全員が一体感を共有できる思い出深い演奏となりました。

特にこの大会で印象深かったことは、地元の先生方や生徒の皆さんの対応ぶりです。佐賀県には管弦楽部がある学校がなく吹奏楽部の皆さんがスタッフになっておられると聞いていたのですが、私たちを温かく迎えてくださり前日リハーサルでは練習に集中することができました。本番当日は会場である佐賀市文化会館に着いてからすべてスタッフの生徒さんのきめ細かい誘導もあり、緊張感の中にも落ち着いて行動することができ、運営面でのクオリティーの高さを部員一人一人がしっかりと感じ取りました。さらに演奏面でも各県の代表として参加しているだけに、演奏形態の違いはあるもののそれぞれの特色を生かした演奏ばかりで、大いに刺激を受けることができました。

最後になりましたが、今回のこの貴重な経験を与えてくださった山口県高等学校文化連盟や日頃から私たちの活動を支えてくれている保護者の方々やOG・OBの先輩方或いは地域の皆様に心から感謝するとともに、今後もより充実した活動を目指しながら、日々精進していきたいと思っています。本当に貴重な経験をさせていただきありがとうございました。



山口県立下関南高等学校管弦楽部

4 令和元年度山口県高等学校文化連盟器楽・管弦楽部会

期 日: 12月10日(火)
場 所: 下関南高校会議室
議 題: 第39回器楽・管弦楽スプリングコンサート(下関大会)について
県総文、全国総文、高文連表彰、役員改選など

5 第39回山口県高等学校文化連盟器楽・管弦楽スプリングコンサート

期 日: 令和2年3月26日(木)
会 場: 下関市生涯学習プラザ(海のホール)
主 管 校: 山口県立下関南高等学校
演奏団体: 部門所属7校によるギター・マンドリン・弦楽合奏・管弦楽の演奏
※新型コロナウイルス感染防止対策のため中止となりました。

日本音楽部門

理事長 谷口 たかし
(高水高等学校教諭)

1 令和元年度日本音楽部門の活動報告

6月13日(木)に宇部市渡辺翁記念会館で行われた総合開会式に宇部鴻城高等学校太鼓部が出演し、慶祝演奏「流伝」「鴻城魂」「古武」を披露しました。6月15日(土)には山口県高等学校総合文化祭日本音楽部門発表大会を開催。早鞆高等学校の「源平音頭」で幕を開け、舞台上の迫力ある演奏に加え、踊り手が客席をまわるといった華やかなオープニングとなり、主管校の歓迎の気持ちが伝わってきました。9校合同による古典の名曲「六段の調」の合奏は今年で7年目。継続は力なりです。箏曲、創作太鼓、郷土芸能、長唄三味線と多彩な内容で、各校の生徒達は、それぞれの持ち味を存分に発揮しました。第43回全国高等学校総合文化祭「2019さが総文」には早鞆高等学校が県の代表として郷土芸能部門に出演しました。

2 令和元年度山口県高等学校総合文化祭を終えて

早鞆高等学校(主管校)

平家太鼓部顧問 堤 勇樹

第41回山口県高等学校総合文化祭日本音楽部門発表大会が6月15日(土)に下関市菊川ふれあい会館(アブニール)において無事に開催されました。今年度は箏曲13校、創作太鼓2校、長唄三味線1校、郷土芸能1校、全17校(出演生徒162名)が参加し、令和初となる大会を盛大に盛り上げました。この2、3年顧問会議で部員数の減少が問題として取り上げられています。しかし各校の演奏を見ると、ポップスやオリジナルの創作演目を取り入れるなど、日本音楽の新たな可能性を模索し、努力されているという印象を受けました。また古典の代表曲を演奏するなど、古人の音楽を伝えていこうという思いも感じることができました。日本音楽の魅力をより多くの人達に伝えるため

にも、今後もこの発表大会を続けていく重要性を参加した生徒の皆さん、顧問の先生方、会場のお客様も感じることができたのではないのでしょうか。

本校は郷土芸能として参加させていただいていますが、部員たちが箏曲や長唄三味線、創作太鼓を鑑賞する機会は1年に1回のこの大会に限ります。また、他校の皆さんからしても本校のような民間の祭りから生み出された音楽に触れる機会はそう多くはないかもしれません。日本音楽を学ぶ生徒たちにとって、貴重な体験になったと思います。

前大会に引き続き、山口県合唱連盟理事長である有富美子先生に講評をいただきました。「有富先生が言われたように、舞台に立つ前の準備が大切だと思う。三味線の音合わせや太鼓の点検など、これからは今まで以上に準備に力を入れていこう。」講評後、本校の部長が部員たちに発した言葉です。顧問である私たちだけではなく、音楽に携わる様々な方のお話を聞くことで、このように生徒たちも成長できるのだと感じました。有富先生にはこの場をお借りして御礼申し上げます。

今大会は「広げよ 創造の大河 築け 未来への架け橋」のテーマで開催されましたが、大会に参加した生徒たち、そして演奏を聴かれた方々は、琴や太鼓、三味線といった和楽器の奥深さを改めて感じる機会になったことと思います。少なくとも私は毎年、そのような思いを持って大会の閉会行事に臨んでいます。私たちに引き継がれた先人が大切にしてきた音楽が、これから先の未来にも繋がっていくことができれば、この大会の意義がより深まっていくのではないのでしょうか。今後も日本音楽を盛り上げていくためにも、生徒たちと一緒に日々練習に取り組んでいきたいと思っています。



9校による合同演奏「六段の調」(日本音楽部門発表大会より)

3 第43回全国高等学校総合文化祭

佐賀大会(2019さが総文) 郷土芸能部門に参加して

早稲高等学校 平家太鼓部

部長 3年 川上 将太

私たち平家太鼓部は3年生10名、2年生13名、1年生6名の総勢29名で、週2日の練習に励んでいます。ただその練習時間だけでは足りず、残りの3日間は自主練習の時間にあてています。土日は老人ホームへの慰問やイベントの開会セレモニーに呼ばれることもあり、その1回1回の舞台で技術を磨いてきました。私は高校入学までは太鼓を叩いたことはありませんでしたが、先輩方や先生方からのご指導もあり、今では部長として後輩の指導をすることができています。そんな私にとって、全国という大きな舞台で演奏することは夢であり目標でした。他県の高校とは違い県予選を勝ち抜いてきたわけではありませんが、2年半で培ってきた力を十分に発揮したいという思いで、佐賀県に足を踏み入れました。



会場は武雄温泉に近い…



武雄市文化会館

に臨みました。そのような中で迎えた本番ですが、私たちの中では悔いの残る結果となりました。太鼓と三味線の音がずれてしまうことを私たちの専門用語で「縫う」と言います。太鼓は三味線の音を聴いて叩くこと、三味線は太鼓の姿を見るかしくは太鼓の音を聴いて弾くことが必要です。普段の練習でも、この点は意識して演奏してきました。しかしこの全国大会終了後、顧問の堤先生から「前半部分は完全に縫っていたね。」と言われ、本当に悔しい思いをしました。正直言うと、三味線の音が聞こえづらく、また緊張からか太鼓のスピードが速くなったり遅くなったりと、普

リハーサル時間は非常に短く、また待機している際に目にした他校の演技に圧倒されました。「これが全国大会という切符を自らの力で勝ち取った高校か…」と正直思いました。しかし、山口県代表として恥ずかしくないような演奏をしようと、皆で気持ちを引き締めて本番

段の力が発揮できませんでした。三味線も一生懸命太鼓に合わせようとしてくれましたが、修正するのに時間がかかったようです。完全に「全国」という舞台の雰囲気呑まれてしまいました。時間が戻せるのであれば、もう一度演奏したいと思った程です。高校入学後、初めてこのような思いを味わいました。しかしより一層練習に対する意欲もわきました。この日から私たちは、今まで以上に練習に励んでいます。

今回の経験で、私たちはリハーサルのリハーサル、準備の準備をすることの大切さを学びました。どのような舞台でも普段の演奏ができるように、常に先を見据えて行動することが大切だということです。私たち3年生にとって今後このような大きな舞台での演奏はありませんが、後輩たちがこの経験をいかして、よりよい演奏ができるようになってくれることを願っています。



早稲高等学校「源平音頭」
(全国高等学校総合文化祭佐賀大会より)



早稲高等学校のみなさん
全国大会
おつかれさまでした!

各部門の報告

マーチングバンド・バトントワリング部門

理事長 中村 亮
(山口県立光高等学校教諭)

1 第41回山口県高等学校総合文化祭総合開会式式典におけるの慶祝演奏

令和元年6月13日(木)に、渡辺翁記念会館で開催された総合開会式での式典慶祝演奏に、部門を代表して慶進高等学校が出演いたしました。本番では、「Sing Sing Sing」の演奏に乗せて、息の合った演技を披露いたしました。



総合開会式 慶祝演技

2 第41回山口県高等学校総合文化祭音楽4部門発表会

令和元年6月14日(金)・15日(土)に渡辺翁記念会館で開催された音楽4部門発表会に、慶進中学校・高等学校が参加いたしました。日本人も所属する韓国アイドルグループ「TWICE」の『I want you back』、洋楽ダンスミュージックの『Bang Bang』、『Ready for it』、さらにミュージカル映画「魔法にかかけられて」の劇中曲『That's How you know』の4曲に合わせて、それぞれの音楽の特徴を捉え、特色ある演技を披露してくれました。

部門からの参加団体が減少傾向にある中、同発表会での演技を続けてくれている慶進中学校・高等学校に敬意を表するとともに、これからも情熱的な演技を披露し、多くの人を魅了してほしいと願っています。

3 第43回全国高等学校総合文化祭

令和元年7月29日(月)に佐賀県佐賀市の佐賀県総合体育館で開催されました。今年度も本県内の他の行事と日程が近いことや、自校の行事との関係で参加は困難でした。

4 マーチングバンド・バトントワリング部門研修会

開催日 令和2年3月29日(日)

会場 山口県鴻城高等学校

講師 大窪 研二 先生(マーチングパーカッション奏者・マーチング指導者)

内容 マーチングにおける動作の基本とマーチングパーカッションについて

※新型コロナウイルス感染防止対策のため中止となりました。

マーチングバンド・バトントワリングを実施する学校は年々減少しておりますが、定期的な研修会を実施することで県内の同部門活性化の一助となればと考へ、一昨年度より研修会を継続して実施しております。

各部門の報告

美術・工芸部門

理事長 島田 憲 貢
(山口県立柳井高等学校教諭)

平成31年度美術・工芸部門の活動について報告いたします。

1 第41回山口県高等学校総合文化祭 美術・工芸部門

11月15日から17日まで宇部市文化会館で開催されました。美術・工芸部門には県内35校より117点の出品がありました。内訳は平面115点、立体2点です。レベルの高い大作が多く、平面では84点の作品が50号やB1の出品規定最大のサイズでした。28点が審査で優秀賞に選ばれ、さらにその中から6点が来年度の全国高等学校総合文化祭(2020こうち総文)の出品候補作品に選ばれました。

講評会では、優秀賞を中心に5名の審査員が各作品について「何をどのように表現したのか」を問いかけながら、それぞれの作品の良さや表現方法などについて話をされました。生徒たちは互いの作品を鑑賞し合うことで美術表現についての視野を広げることができ、今後に向けてのよい原動力となりました。



講評会の様子

優秀賞(全国高総文祭出品候補作品)

学校名	氏名	学年	題名	大きさ	種別
熊毛南高等学校	上原 加菜	2	14歳Ⅲ	F 50 縦	絵画
防府西高等学校	原 朋美	2	飛沫	B1 縦	絵画
宇部商業高等学校	河村 愛花	2	迷走	B1 縦	デザイン
下関西高等学校	岡藤 朋葉	2	マーマレード	F 30 縦	絵画
下関南高等学校	山本 優奈	2	逃避	F 50 縦	絵画
サビエル高等学校	大原 まりか	2	大爆発	F 50 横	絵画

優秀賞

学校名	氏名	学年	題名	大きさ	種別
岩国高等学校	山崎 未来	3	organization【編成】	B1 縦	デザイン
岩国総合高等学校	長谷井 美香	3	海宙園	B1 横	デザイン
岩国商業高等学校	河本 朋乃	2	未来からくり番地	B1 縦	絵画
柳井高等学校	渡邊 舞	2	パンク精神	S 50	絵画
光丘高等学校	有井 万葉	2	現代社会の箱	B1 縦	絵画
光丘高等学校	藤本 春花	1	憧れの街	F 50 横	絵画
徳山高等学校	江村 健真	3	ないものねだり	変形 F50	絵画
山口高等学校	油屋 凜々香	2	水紋	F 50 横	絵画
山口中央高等学校	佐藤 希	2	残り1枚の10円で	F 50 縦	絵画
西京高等学校	能野 夢子	3	何かに誘われた	F 50 縦	絵画
西京高等学校	松崎 未歩	2	現代人	B1 縦	デザイン
宇部高等学校	島田 葵衣	3	鯉魚石	F 30 横	絵画
宇部西高等学校	中村 百花	2	終わりのない青さ	F 50 横	絵画
田部高等学校	永富 千夏	2	Look at	B2 縦	絵画
田部高等学校	池田 七子	1	文明の進化と繋がる世界	B2 横	絵画
長府高等学校	樋口 慶一	3	再生	F 50 横	絵画
下関西高等学校	瀬川 彩夏	2	団欒の唄	F 50 横	絵画
下関南高等学校	仲谷 萌々葉	2	青春期の葛藤	F 50 縦	絵画
下関中等教育学校	片山 美優	2	明日が早い	F 50 縦	絵画
下関中等教育学校	中河 彩海	2	無雑	F 50 縦	絵画
高水高等学校	中川 奈緒美	3	虚無	B1 横	デザイン
サビエル高等学校	梅本 友紀	2	彷徨い	B1 縦	デザイン

2 第43回全国高等学校総合文化祭(2019さが総文祭)美術・工芸部門

7月27日(土)～7月31日(水)の5日間、全国の都道府県で選ばれた絵画、彫刻、デザイン、版画、工芸、映像等400点の優秀作品が、佐賀県立博物館・美術館(佐賀市)に展示されました。本県から出品した作品6点も、それぞれに作者の思いや気持ちが込められた完成度の高い作品として、全国の作品に霞むことなく展示されていました。全国のレベルの高い作品を鑑賞した本県6名の生徒も大きな刺激を受け、美術文化活動への関心を深め、今後の表現力を高める原動力にもなったことと思います。なお、この大会では優劣をつける審査等は実施していません。そして、全員に「文化連盟賞」の賞状が授与されました。

7月28日(日)部門開会式は、博物館、美術館の近くの市村記念体育館で行われ、オープニング映像では、美術・工芸部門の作品紹介や活動、佐賀県の県総文の取り組み、今回の大会までの準備の様子などが上映されました。開会式冒頭に、今大会開催に際して中学生・高校生から募集し、選ばれた「Fly」というテーマソングがPV映像で流されました。開会式では全国高文連美術・工芸の廣田昌彦会長から、「この佐賀の地では、あなたと同じ美術・工芸を愛好する仲間たちの中に、これまでに出会ったことの無いような個性や想像もしなかったような価値観に触れ、人間の多様性のすばらしさを、未来に繋げることの大切さを感じてほしい。」という内容のあいさつがありました。

交流会は、開会式参加生徒の座席が86の班に分けられており、開会式後、事前に配付されていた作品カードを使い、ゲームをしながら自己紹介を行いました。

その後、佐賀県立博物館・美術館へ移動し、互いの作品について対話型鑑賞を行いました。また、このグループは、翌日の7/29(月)に行われた研修講座の各グループを少人数に分けたものとなっており、2日目は会場を佐賀県立佐賀西高等学校移して、実技研修講座が行われました。本県の参加生徒も各自が希望する講座で、専門の講師による実技研修講座を、「真剣に」、「楽しみながら」、「他県の生徒と交流しながら」と様々なシチュエーション参加していて、貴重な経験になったのではないかと思います。



対話型鑑賞の様子

以下、参加した生徒のみなさんより感想をいただいています。

サピエル高等学校 2年 大原 まりか 題名「生きづらい」



私は、全国総文祭に出品されていたハイレベルな作品群に多くの感銘を受けました。また交流会や講座を通して、多くの人たちと作品や将来のことについて語り合うことができました。自分と同じ志を持つ人たちと交流できたことは、これからの私の人生の大きな糧となりました。全国総文祭で感じた作品に対する熱意を忘れず、次の作品にも活かせるように頑張りたいです。

山口県立岩国高等学校 3年 田中 美帆 題名「海が還る処」



佐賀総合文化祭に参加したという体験は、私の人生に

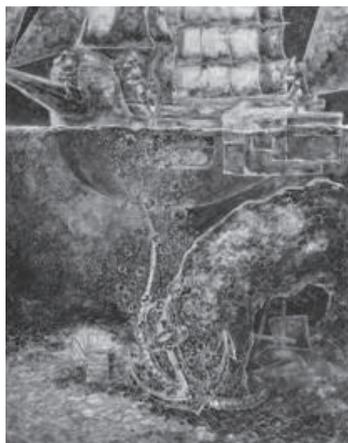
おいてとても貴重で大きな刺激になる事でした。全国のレベルの高さに驚き、触発されて、作品を描きたい気持ちがより一層深まりました。普通の展覧会を訪れる事とはどこか違い、それ以上に勉強になるような気がします。また、様々な県の同級生との交流も新鮮で、いい思い出になりました。

下関商業高等学校 3年 河野 明日奈 題名「捕食者」



初日に全国の作品を見に行きました。どれもそれぞれ異なった魅力や迫力があり、圧倒され、緊張しました。私は、「捕食者」という題名の白い狼の絵を出展しました。今回の全国大会で、絵に関する事以外にも様々なことを学ぶことができました。そして、他の県の人達と楽しく交流ができ、本当に充実した3日間になりました。この経験を活かし、今後の生活をより良いものにしていきたいです。

山口県立徳山高等学校 3年 青木 寧音 題名「わくわく病」



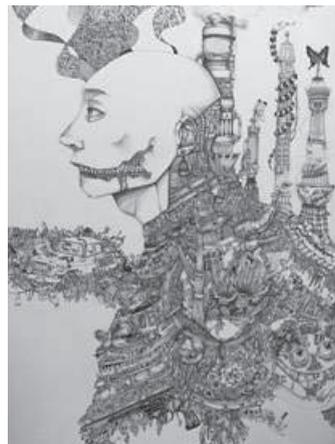
さが総文祭では全国の創作に燃える人たちのレベルの高い作品に触れることができ、たくさんの良い刺激を受けました。いろいろな人と話して、それぞれの作品の作者が好きなものや作品を通して伝えたかったことなど、創作のきっかけについて聞くという貴重な体験ができ、今後の作品制作の糧にしたいと思いました。

山口県立光丘高等学校 3年 小林 ほのか 題名「タイムCAPセル」



さが総文祭では、全国大会代表に選ばれた作品のクオリティーの高さに驚きました。会場で自分の作品を客観的に見て、まだまだデザイン力と完成度を高めていく必要があると感じました。私はプロダクトの講座で他地域代表の高校生と交流ができて良い刺激を受けました。この貴重な経験を糧に今後も作品づくりに精を出していきたいです。

山口県立光丘高等学校 3年 新山 董 題名「私のはかない世界」



全国総合文化祭佐賀大会では、代表作品から感じた技術の高さや想像力の豊かさに圧倒されました。同世代の人たちの制作活動に大きな衝撃を受け、素晴らしい作品を鑑賞できたことは、とても貴重な経験になりました。また、私は染色講座で型染を体験しました。今回の経験を生かし、今後の制作に繋げていきたいです。

3 美術・工芸専門部連絡協議会および研修会

10月8日に柳井高等学校で行いました。協議会では今後の美術・工芸の大会運営や、県総文祭美術・工芸展覧会の出品規定などについて意見交換がなされました。研修会では、全国大会の作品を一点一点スライドで、多様なレベルの高い作品を鑑賞し、今後の指導の参考としました。また、美術部の活動について柳井高等学校の事例発表を行いました。

書道部門

理事長 河合 和子
(山口県立下関南高等学校教諭)

1 第41回山口県高等学校総合文化祭書道部門

11月2日(土)・3日(日)

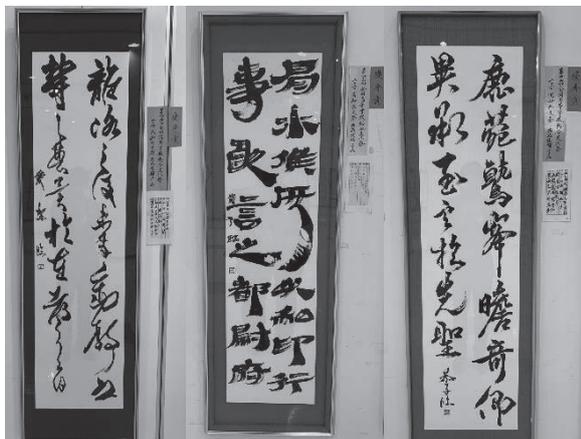
おのだサンパーク大催事場

今年は県内15校より76点が出品され、厳正な審査により、来年の全総文高知大会への出品候補作品3点を含む優秀賞12点と、今年新しく設けられた奨励賞6点が選出されました。臨書作品が多く、とても真摯に古典に向き合い、自分なりの表現を目指した高校生らしさあふれる作品ばかりでした。9月の生徒研修会で制作した、山頭火の句の漢字仮名交じり作品も、屏風に表装されて展示され、県内書道部生徒の共同作品として会場を彩りました。2日目15時からの講評会では、審査員の先生方に講評をいただきました。視点の違うアドバイスを受け、参加生徒は明日の部活動への意欲を感じてくれたものと思います。

昨年の好評を受け、今年も大きな商業施設の中の催事場での作品展でしたが、高校生に限らず、ご家族連れや通りがかった年配の方など、やはりたいへん多くの方々に作品を見ていただくことが出来て、とても充実した作品展となりました。



講評会の様子



2020高知総文 出品候補作品

《優秀賞～第44回全国高等学校総合文化祭 2020高知総文 出品候補作品》

山口県立山口高等学校	2年	井上 愛梨
山口県立宇部西高等学校	1年	仁井 貴予
山口県立下関南高等学校	1年	中村 恭子

《優秀賞》

山口県立岩国高等学校	3年	秋本 英俊
山口県立岩国総合高等学校	1年	笹田 智代
山口県立山口高等学校	2年	阿野 桜子
山口県立宇部西高等学校	1年	河村 三奈
山口県立長府高等学校	1年	村上 彩菜
山口県立下関西高等学校	1年	佐野 綾音
山口県立下関南高等学校	2年	濱田 祐実
山口県立下関中等教育学校	2年	鈴木 日奈子
中村女子高等学校	2年	高橋 幸音

《奨励賞》

山口県立岩国商業高等学校	3年	重本 ひなた
山口県立徳山高等学校	2年	江越 さくら
山口県立防府高等学校	2年	松谷 朋奈
下関市立下関商業高等学校	2年	大和 あかり
早鞆高等学校	2年	橋本 紗良
萩光塩学院高等学校	2年	津田 華那

2 第21回高文連書道部会生徒研修会

9月14日(土)・15日(日)

山口県セミナーパーク

今年度の生徒研修会は、1泊2日の日程で実施しました。今回は研修の内容は、1日目の午前中には1字大書の創作、午後からは漢字仮名交じり作品の制作を行いました。今回のテーマは種田山頭火の句です。まず、それぞれ自分で料紙を作ります。マーブリングやスパッタリングといった技法でデザインした半紙1/2大の紙に、全員がちがう山頭火の句を揮毫し作品を制作しました。屏風に仕立て、県の総文祭で合同作品として展示しました。みな同じ創作でも1字大書とはまた違った個性を見せてくれました。2日目は県総文祭に出品する作品の個人練習とその講評会で、全国大会出場を目指し、熱気あふれる練習会でした。参加者も満足感を得てくれたのではと思います。日

頃、他校の生徒と関わることの少ない書道部ですが、研修の中でライバルでもあり、同じ志を持つ同士でもある仲間としての絆が生まれたように感じました。来年からもこうした研修の機会を設けたいと思っています。



研修会の様子

3 第43回全国高等学校総合文化祭(佐賀大会)

7月27日(土)～8月1日(木)

唐津市文化体育館(唐津市)

本年度の全国高等学校総合文化祭は、佐賀県にて、「2019さが総文祭」の名称で開催されました。山口県からは、県内の総合文化祭で選出された3校が、県代表として出品しました。以下に参加者の感想を付します。

第43回全国高等学校総合文化祭に参加して

山口県立山口高等学校 3年 藤本 彩花

佐賀県で開催された全総文祭に参加して、書道という芸術のすばらしさを改めて感じることができました。また、全国から選抜された約300点もの作品の迫力に圧倒され、自分の作品がちっぽけに感じるほどでした。自分が臨書した古典と全く一緒の作品は無かったですが、同じ黄庭堅の行書の作品があり、線の表情の出し方や構成等の表現の違いによってここまで変わるものだと驚くとともに、書道の面白さを再認識することができました。

また、交流会では全国から集まった高校生と色々な話をすることができました。書道を通して全国の高校生と仲良くなることができたのはとても嬉しく、楽しい時間はあっという間に過ぎていきました。

今回のような貴重な体験をさせていただき、本当にありがとうございました。また、全総文祭のためにずっと前から準備して下さった皆様、高校生ボランティアの方々のおかげで一生の思い出を作ることができました。感謝の気持ちでいっぱいです。これからもこの感謝の気持ちを忘れずに、書道を楽しんでいきたいと思っています。

山口県立下関西高等学校 3年 入江 吉乃

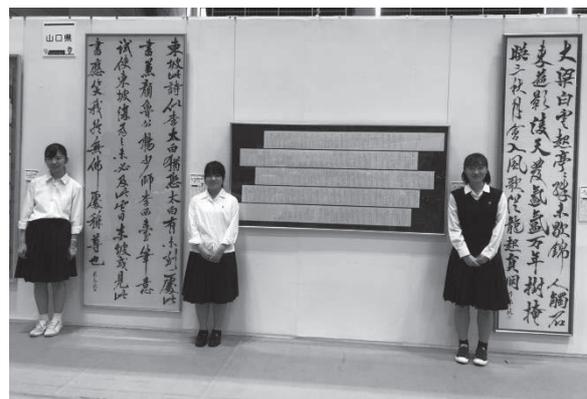
私は、今回の全国大会で仮名の「中務集」を臨書しました。1年生の時に仮名の魅力に惹かれ、その時から練習してきた古典です。全国大会に向けて、「中務集」の特徴である鋭いけれども柔らかさのある線を表現できるように努力しました。それだけでなく、自分なりに墨の潤濁を考えて作品を制作しました。しかし、ほかの人の制作意図や工夫した点についての発表を聞いて、私の作品はまだ工夫が足りなかったのだと感じました。また、額に入れられた自分の作品を見て初めて気づくこともあり、もっと魅力的な作品を作ることができるようにになりたいと思いました。会場には迫力のある作品が多くあり、とても圧倒されました。仮名の作品でも、字の配置や使っている料紙が様々で、いろいろな表現の仕方があるのだと感じました。

この全国大会に出場できたのは、先生方をはじめ多くの人の支えのおかげです。今回学んだことを今後に生かしていきたいです。

山口県立下関南高等学校 3年 水野 沙耶

全国高等学校総合文化祭に参加できたことは、私にとって貴重な経験になりました。展示会場では、全国の素晴らしい作品を間近で見ることができました。その中に自分の作品も出品できたことにとっても喜びを感じました。しかし、同じ高校生であるのに周りの作品は、一つひとつの表現力がすごく、レベルの高さに圧倒されました。

私は、今回、苦手で今まで避けてきた行書に挑戦しました。何度書いても法帖のような行書の優しい線のなかにある鋭さを表現することに苦労しました。しかし、苦手なものに挑戦したからこそ達成感もより感じることができました。そして、全国大会に出品することができたのは、先生方の熱心なご指導があったからだと思います。この気持ちを忘れることなく、多くの支えに感謝し、より一層書道に精進していきたいと思っています。



全国総文祭(佐賀大会)参加者

各部門の報告

写真部門

理事長 尾崎 勝利
(山口県立防府高等学校教諭)

令和元年度の山口県高文連写真部門の活動状況について報告いたします。

1 令和元年度第43回全国高等学校総合文化祭(2019さが総文)写真部門

全国高校総文写真部門は全国展・企画展が7月27日～31日の期間に、嬉野市体育館で行われました。各都道府県の代表作品が展示される全国展には、全国高校生の撮影した優れた作品が数多くあり、写真の取り組みに対する意識の高さが感じられ、見応えがあります。本県からも5点の作品が出品されました。残念ながら全国展での本県作品の入賞はありませんでした。

2019さが総文祭に参加して

山口県立下松高等学校 3年 池田 雪乃 題名「Falling drop」



第43回全国高等学校総合文化祭は本当によい思い出と経験をさせていただきました。佐賀の街並みを撮影したり、斎藤勝則先生の講演を聞いたり、とても勉強になりました。

また、生徒交流会では、普段は交流できない他県の生徒と話したり、写真交換したりと貴重な機会が持て、楽しい時間を過ごすことができました。私は交流会の時間で、嬉野市塩田津の居蔵造の街並みを、写真を撮りながら見学して行きました。保存会の方が塩田津の歴史や、建物の造りを丁寧に説明してくださり、江戸時代のにぎわいが伝

わってきました。

2日目の撮影会の時間には 祐徳稲荷神社に行きました。階段がとてもきつく辛かったのですが登った時の達成感と有明海を一望できる絶景は忘れられません。この2日間どんな方も快く撮影させて下さり、佐賀の方の温かさに触れることが出来ました。そして全国の高校生の素晴らしい作品を見ることができ、沢山の刺激を受けました。自分では思いつかないような作品をたくさん見ました。

このような貴重な体験をさせて頂いたことに感謝し、次の作品に繋げていきます。また佐賀に行きたいです。

山口県立下松工業高等学校 2年 山崎 大樹 題名「僕だけの場所」



夏に佐賀県で行われた全国高等学校総合文化祭写真部門に出場しました。嬉野という場所で行われ、そこは歴史を感じることで町風景が広がっており、写真を撮るには絶好の場所でした。

自分は、高校に入るときには部活動を決めておらず、昔から親のカメラでものを撮っていたので写真部に入りました。入ったころは一眼レフの使い方がわからなくて、先輩に教えてもらうばかりでした。一眼レフの基本的な操作を覚えて、撮った写真が県の総合文化祭で入選し、全国大会に出品することができました。タイトルは、『僕だけの場所』です。写真を撮ることで物事を客観的に捉える能力や、風景をどう美しく加工できるかというパソコンでの編集能力を身に付けることができました。

一年生から二年生まで部活動に取り組んできて、まだまだ写真の能力はないと思います。三年生になったら、もっと能力を伸ばしていこうと思います。これからも応援よろしく

お願いします。

山口県立防府高等学校 3年 多賀 莉乃 題名「好敵手」



今回の佐賀総文の中で普通なら出会うことのない人と出会い、見ることのない写真を見ることができ、大変貴重な経験となりました。

1日目の講演会では、風景写真を中心に撮り方のコツ等を新たに知ることができたため、写真に対する理解が深まりました。また、その後の生徒交流会でも全国の高校生が何を思って、どのようなタイミングで撮影しているのか、彼らが撮った写真とともに聞くことができ勉強になりました。

2日目の撮影会は佐賀県を観光する気持ちで楽しく写真撮影を行えました。3日目の講評会では審査員の方がどのような点に着目して受賞作品を選んでいるのかがわかってよかったです。

最後に展示会場では、全国レベルの作品を一度に生で見られると言うなかなかできない機会を得ることができました。他校生との交流や作品鑑賞を通じて獲得できた新たな物の見方を、今後他者との関わりの中で生かしていきたいです。

山口県立防府高等学校 2年 水津 桜咲 題名「ひとりの時間」



私は夏に佐賀県で開催された全国総合文化祭に参加しました。そこでは、今まであまり見ることのなかった全国レ

ベルの作品を目の当たりにしたり、全国の写真部との交流会や撮影会に参加したりして、たくさんの刺激を受けました。

1日目に行われた交流会では、それぞれの作品を交換したり、特産品であるお茶を入れる体験をしたりしました。互いに地元の話をして、普段関わることのない全国各地の写真部の人たちと交流することで、新鮮に感じることも多く貴重な体験になりました。

2日目に行われた撮影会では祐徳稲荷神社で海の中の鳥居を見に行きました。佐賀県の観光地を巡って、真夏の暑い日でしたが、たくさんの写真を撮影することができました。

また全国で賞をとった作品の講評会では、写真の技術や感性・発想力について大きな学びが得られました。全国レベルの作品を目の当たりにして、同じ高校生がこんな写真を撮ることができるのかと驚くこともありました。人の作品を見る事はとても勉強になることを実感することができました。

3日間で貴重な経験をすることができて本当に良かったです。写真についてだけでなく写真を通じて人との関わりを増やすことができたり、たくさんの刺激を得られたことが私にとって大きな学びとなった全国総文でした。

2 第41回山口県高等学校総合文化祭展示部門

11月15(金)～17日(日)周南市の新南陽ふれあいセンターにおいて県総文展示部門の作品展示が行われました。今年度は13校186点の作品の応募がありました。昨年度よりも2校少ない参加であったのは残念です(作品数は例年並み)。写真部の数や部員の減少により、各校の年ごとによる部員数の増減により出品数が左右される現状です。部員数や出品数は他県と比較してかなり少ない状況であり、今後の部員数の増加や活動の活性化に課題を残しています。今後は写真部・美術部の垣根を超えた写真の啓発により、写真部会の活性化ができればと考えています。また例年、審査員としてプロカメラマンである(社)日本写真家協会会員のタカオカ邦彦氏を迎え、プロによる評価・講評を続けています。今年度は審査の結果19点が優秀賞に選ばれ、そのうち5点が来年の全国高校総文高知大会への出品候補作品となりました。最終日の講評会ではタカオカ氏からののびやかな講評があり、参加された生徒・顧問の皆さんも学ぶことが多かったのではないかと思います。

準備・運営に携わってくださった役員の方、また補助員の生徒の皆さんに感謝いたします。

優秀賞(全国高等学校総合文化祭出品候補作品)

学校名	氏名	学年	題名
下松高等学校	原田 采奈	2	夜のお遊戯会
下松工業高等学校	坂本 颯雅	2	「母」からの解放
新南陽高等学校	糸稻 友香	2	自称人魚姫
防府高等学校	古川 あゆみ	2	待ちぼうけ
	村田 七美	1	ある日の公園で

優秀賞

下松高等学校	仲田 理乃	1	おひげがましい
	秋山 遥香	2	ねえ
	上野 桃子	2	虚笑
	橋村 悠月	1	かたおもい
	田村 真央	1	まっすぐな人
下松工業高等学校	山本 慧	2	日常
新南陽高等学校	山本 璃乃	2	ガラスの世界
	砂田 春菜子	2	乙女の願い
山口農業高等学校	森園心結	1	彩る記憶
	橋本ひかり	1	CM撮影会
防府高等学校	岩政 真由	2	見てる？
	松本 月碧	2	暗雲を飛ぶ
	磯辺 樹	2	日曜、午後3時
	津穂 桜咲	2	アワベース



全国総文祭(高知大会)出品候補作品

3 写真研修会・提出作品の講評会

展示部門の会期最終日に新南陽ふれあいセンターに於いて、タカオカ邦彦氏による写真研修会があり、例年と同様50名あまりの参加がありました。午前中は県総文祭作品の講評会の後、参加生徒が提出した作品を講評する研修会を行いました。今回の研修の提出作品のテーマは「私って何者?」でした。作品をスクリーンに投影し、作品に対する本人の説明の後、生徒たちが講師からの講評・アドバイスを受けるという対話重視の研修を体験しました。

また、2月には生徒・顧問から提出された作品に対して、タカオカ氏による作品講評がなされる、という形での研修会を行います。

今後も同様な形で研修会を開催し、写真部員の技術向上に役立てたいと考えています。



作品講評の様子

4 その他の活動

第26回全国高等学校写真選手権大会(写真甲子園2019)の本戦出場校を決める中国ブロック決勝5校に、下松高等学校と防府高校が進出し、5校中2校を山口県の高校が占め、山口県の高校生の写真レベルの高さを感じさせました。審査の結果、本戦出場は果たせませんでした。また、TopEye 全国高校生写真サミット2020に下松高校が出場しました。

放送部門

理事長 田 中 祐 子
(山口県立徳山高等学校教諭)

1 第43回全国高等学校総合文化祭(2019佐賀総文)は、7月31日と8月1日、佐賀県基山町の基山町民会館と基山町総合体育館で行われました。今年の大会コンセプトは「輝宝(きぼう)を探そう、あなたとともに」でした。実行委員会は、「まだ見出していないかもしれない一人ひとりが持っている「宝物」を探し、見つけて共有したい。これから生きていく上での「希望」となるような大会としたい。」という目標を掲げて大会を運営されました。スタッフが多いとは言えない環境の中で、大会役員の先生方や生徒さんがそれぞれの役割を果たし、柔軟に個々に対応されている様子が印象的でした。

山口県勢は、朗読部門において山口高校3年の児玉瑞歩さんが見事入賞されました。昨年度は番組部門で光高校が入賞し、特設された CM 部門では山口県チームが部門最高賞をいただくという大躍進でしたが、その勢いが途絶えることなく、山口県の中から2年連続で入賞者がでたことは特筆すべきことでした。過去数年間で、全国に通用する力をつけようと学校間で協力して合同研修会を開き、大会中も一緒に練習をすることが当たり前になりました。ネットワークの発達で生徒同士が直接連絡を取れるようになったこともあり、学校間の交流が進んでいます。今後も山口県としては、上位大会でも存在感を示していけるように、情報を共有しあい切磋琢磨したいと思います。



基山町民会館前にて集合写真

第43回全国高等学校総合文化祭(2018信州総文)放送部門に参加して
山口県立山口高等学校放送部
3年 児玉 瑞歩

今回のさが総文は、放送を通してできた沢山の人のつながりを実感できる大会でした。

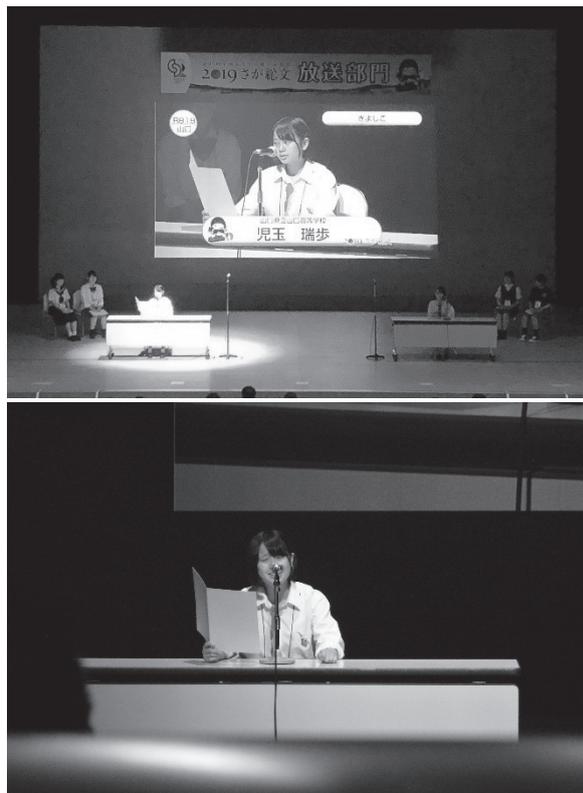
私は朗読部門に出場し、山口県ゆかりの作家である重松清さんの「きよしこ」という作品の一場面を朗読しました。これは、吃音を持つ少年が自分の思いをうまく伝えられないもどかしさを描いたシーンです。この作品にたどり着くまでに、山口県にゆかりのある作家の本を何十冊か読みました。その中からいくつかのシーンを選び、どれが一番良かったかたくさんの人に相談しました。先生方や部員、山口県他校の仲間も相談に乗ってくれました。そしてこの「きよしこ」を読むことに決めたのです。そのおかげで、選んだシーンに自信をもって大会に出場することが出来ました。

大会当日、佐賀県についてからの練習の際は、山口県勢で朗読・アナウンスの垣根なくお互いの読みを聞き合いました。山口県の読みの出場者が全員三年生だったこともあり、最後の大会に向けての思いや、放送部での思い出を分かち合うことができました。また、発表の直前に出場生徒が集まる控室では、多くの他県の生徒とも交流できました。発表前で緊張している気持ちを素直に打ち明けあったり、朗読や大会への思いを語り合ったりしたことで、わずかな時間でしたがリラックスすることができました。自分の発表のときには、「これが放送部生活最後の読みになるんだ」と、一言一言かみしめながら読みました。

朗読でもアナウンスでも、実際の発表はほんの一〜二分程度です。ですが、この短い時間の発表のために、何度も練習し、それぞれの課題を克服しながら準備します。私も朗読する作品を選んで自分なりの表現の仕方を探したり、取材したことを誰にでもわかりやすい言葉で表現したりする苦しさを何度も味わいました。そんなときは先生や仲間の支えがあり乗り越えることができました。

山口県の放送部員の人数は少ないですが、その分生徒同士のつながりも強く、お互いを高めあいながら活動することができました。これからも山口から多くの人の心に届くような読みや番組が生まれてくれたらいいなと思います。

また、山口県の放送部門がこれからも発展して、沢山の人が放送の魅力を感じてくれたらいいなと思います。



朗読の様子

2 第41回山口県高等学校総合文化祭第26回放送部大会は11月9日、山口市のニューメディアプラザで行われました。参加人数は、朗読部門30人、アナウンス部門22人、オーディオピクチャー部門3校3作品、ビデオメッセージ部門5校5作品となりました。ここ数年増加傾向であった読みの部門での出場者、特にアナウンス部門の出場が大きく減少しました。アナウンス部門は、タイムリーなネタを探して何度も取材し、伝えたいと感じたことを自分の言葉で表現するという、時間と根気を必要とする分野です。地域に飛び出して行って取材をする積極性と対話力を、この部門への参加をきっかけに培ってほしいと思います。

この大会の上位入賞者は令和2年2月1日(土)2日(日)に鳥取県米子市、米子市文化ホールで開催される、第5回中国地区高等学校放送コンテスト、並びに、令和2年8月1日(土)2日(日)に高知県香南市で開催される、第44回全国高等学校総合文化祭 2020こうち総文 放送部門に参加します。

【朗読部門】

- 最優秀 尾中 莉彩(山口高校2年)
- 優秀 山本 結花(華陵高校1年)

- 〃 高橋 和(下関西高校2年)
- 以上3名 全国大会推薦

- 入選 内山 奈南(下関西高校2年)
- 〃 田中 楓香(山口高校1年)
- 〃 宮本 陽菜(下松高校2年)
- 〃 奥藤 萌々子(下関西高校2年)
- 〃 石光 哲弥(熊毛南高校2年)
- 〃 瀬田 昇吾(高水高校2年)
- 〃 山根 夕季(徳山高校1年)
- 以上10名 中国大会推薦

【アナウンス部門】

- 最優秀 菅 里帆(山口高校2年)
- 優秀賞 津田 晴香(山口高校1年)
- 〃 森野 里奈(下関西高校2年)
- 以上3名 全国大会推薦

- 入選 伊藤 蒼彩(徳山高校1年)
- 〃 福田 有紀乃(下松高校1年)
- 〃 伊東 麗(山口高校2年)
- 〃 廣田 満帆(熊毛南高校2年)
- 〃 田中 七海(下松高校2年)
- 〃 田村 千夏(下関西高校2年)
- 〃 弘中 莉奈(山口高校2年)
- 以上10名 中国大会推薦

【ビデオメッセージ部門】

- 最優秀 「× - かける - 」(熊毛南高校)
- 優秀 「from KUDAMATSU to the WORLD」(下松高校)
- 以上2作品 全国大会推薦
- 入選 「刻 -だれも知らないエピソード-」(岩国高校)
- 〃 「JKもZOOとわっくわく」(徳山高校)
- 〃 「feel at home」(山口高校)
- 以上5作品 中国大会推薦

【オーディオメッセージ部門】

- 最優秀 「コッコー」(熊毛南高校)
- 以上1作品 全国大会推薦
- 入選 「夢みる女子高生」(下松高校)
- 〃 「共に「わたる」」(岩国高校)
- 以上3作品 中国大会推薦

3 アナウンス・朗読研修会は、徳山高校を会場に放送インストラクターの安田知博先生を招いて6月9日(日)と11月17日(日)の2度実施しました。また、3月21日から1泊2日で、光市のスポーツ交流村にて、次年度へ向けて強化合宿を行う予定です。

※新型コロナウイルス感染防止対策のため中止となりました。

囲碁部門

理事長 高野 朝 男
(山口県立下関西高等学校教諭)

<平成31年度の主な活動報告>

1 囲碁研修大会

期 日：7月14日(日)
場 所：下関西高等学校
指 導：日本棋院プロ棋士 五段 山本賢太郎



(研修大会・指導碁風景)

2 第43回全国高等学校総合文化祭囲碁部門

期 日：7月27日(土)・28日(日)
場 所：佐賀県鹿島市「佐賀県立鹿島高等学校」

第43回全国高等学校総合文化祭囲碁部門大会は、7月27日(土)・28日(日)に佐賀県鹿島市で開催されました。佐賀県立鹿島高等学校を会場に、2日間で各参加者は6局を打ち、盤上での熱戦を繰り広げました。

大会は、団体戦(男女混成3名の各県代表チーム)と男女個人戦(各1名の各県代表)で行われました。山口県チームは、前年10月の県総文祭の上位入賞者が代表となって出場しました。大会での順位付けは、団体戦・個人戦ともに、勝者同士・敗者同士を対局させて、2日間で6局の各対局相手の勝敗も加味して順位を決めるスイス方式で行われました。参加した代表生徒はそれぞれに力を出し切りました。また、全国の高校生との交流も存分に楽しんでいました。

<<出場者と成績>>

<団体戦>(男女混成3名)

古道 大介 (徳 山)	
山田 健人 (山 口)	
諸井 花音 (下 関 西)	
	3勝3敗30位

<個人戦>(男女各1名)

男子 長尾龍之介 (山 口)	3勝3敗25位
女子 青木 寧音 (徳 山)	2勝4敗30位

第43回全国高等学校総合文化祭「2019さが総文」囲碁部門に参加して 山口県立徳山高等学校 3年 青木 寧音

さが総文では、囲碁の好きな全国の高校生たちと緊張感のある対局をすることができました。対局の結果はあまり良いものではありませんでしたが、自分にはない発想や武器を持った人たちと関わり、仲良くなれたことは本当に貴重な経験だったと思います。また、囲碁部門の会場だった鹿島市を観光して囲碁の歴史も知ることができました。本当に充実した3日間でした。



(女子個人戦・対局風景)

山口県立山口高等学校 3年 長尾龍之介

自分にとって最後の高校生大会である今大会の結果は3勝3敗でした。良い内容の局が多かっただけに、勝負所で勝ち切れなかった局のことをとても悔やんでいます。同

時に、全国大会という大舞台で自分らしい碁を打つことの難しさを痛切に感じたり、相手の鋭い一手一手に感心させられたり苦しめられたりと、大変ではありましたが、自分の棋力向上に大きく繋がる大会であったと思います。

また、コミュニケーションツールとしての囲碁の素晴らしさを感じることできた場面も多くありました。初対面の人も感想戦などを通じてたくさん話げができました。強豪の集う今大会では対局者とお互いの意見をぶつけ合うことがとても楽しく、さらには対局者以外の人からも話を聞けたりする機会もあり、とても素晴らしい経験ができました。

今後も自分は囲碁を続けていきますが、今大会はきっと自分の囲碁をより昇華させてくれる大きなキッカケになったと確信しています。このような素晴らしい大会を開催していただいた関係各位と、応援して下さった方々への深謝を述べたいと思います。



(全国総文・参加者)

山口県立下関西高等学校 2年 諸井 花音

私は、全国総文祭の囲碁部門・団体戦に出場しました。団体戦は男子二名・女子一名の三名でチームを編成して、全部で六局を打ち勝敗を競うものです。山口県チームは三勝三敗でしたが、私自身は二勝四敗でとても悔しい結果となりました。

練習してきたものを出し切るように必死に粘りましたが、勝ちたいという思いが空回りして、自分の未熟さを痛感させられました。

大将は徳山高校の三年生、副将は山口高校の二年生でしたが、二人とも優しく声をかけてくれてとても心強かったです。初めてチームを組んだ三人ですが、お互いにカバーし合う、良い雰囲気で行うことができました。迷惑をたくさんかけた私ですが、チームのためになれたところもあり嬉しく思いました。団体の一人として戦うことは今までにな

く、普段はできないことができ、とても貴重な経験となりました。

また、対戦した相手の他に、青森、岡山、広島、鹿児島に参加選手とも囲碁やその他いろいろなことで会話が盛り上がり、とても楽しく有意義な時間を過ごすことができました。この二日間での経験を、これから様々な場面で活かしていきたいと思います。



(団体戦・対局風景)

3 第41回山口県高等学校総合文化祭囲碁部門

期 日：10月20日(日)

場 所：下関西高等学校

第41回山口県高等学校総合文化祭囲碁部門第31回大会を、10月20日(日)に下関西高校で開催しました。参加校は8校で、23名の生徒が参加しました。

この大会は、来年度高知県で開催される第44回全国高等学校総合文化祭囲碁部門大会の県代表と今年度岡山県で開催される第23回中国高等学校囲碁選手権大会の県代表を決定するものです。参加生徒は全部で4局を打ち、スイス方式によって戦績の順位が決まります。その結果で、男子上位3名と女子上位2名が全国大会に出場することになります。中国大会には、団体戦に団体優勝の高校が、男子個人戦に男子の上位6名、女子個人戦に女子の上位3名が出場します。

《大会結果》

〈団体戦〉

男子 優勝 山口県立山口高等学校

〈個人戦〉

男子 優勝 沖田 琉唯 (柳井商工)

2位 山田 健人 (山 口)

3位 宮邊林太郎 (山 口)

女子 優勝 諸井 花音 (下 関 西)
 2位 吉本 光希 (徳山商工)
 3位 藤村 真尋 (徳山商工)



(県総文・対局風景)

4 第23回中国高等学校囲碁選手権大会

期 日：12月21日(土)・22日(日)

場 所：岡山県岡山市・山陽新聞社本社ビル

中国大会には、男子団体戦に山口高校、男子個人戦に県予選の上位6名、女子個人戦に上位3名の選手が出場しました。

《出場者と成績》

(団体戦)

男子 山口高等学校 1勝4敗 5位

(個人戦)

男子 沖田 琉唯 (柳井商工) 3勝2敗 8位

赤野 晴晟 (徳山商工) 3勝2敗15位

石田 悠真 (徳 山) 3勝2敗16位

石田 望 (徳山商工) 2勝3敗18位

藤本 涼太 (宇部高校) 1勝4敗27位

西村 怜桜 (徳山商工) 1勝4敗30位

女子 諸井 花音 (下 関 西) 2勝3敗 9位

藤村 真尋 (徳山商工) 1勝4敗11位

吉本 光希 (徳山商工) 1勝4敗14位



(中国大会・対局風景)

将棋部門

理事長 弘 中 敏 之
(山口県立徳山高等学校教諭)

近年、県内の高校将棋は参加人数の増加だけでなく、そのレベルも向上しています。特に昨年2月に行われた全国新人大会で大中君が3位入賞、今年度にかけて連続上位入賞しました。また、8月に福岡市で開催の全国高校竜王戦では山村君が県内初の全国優勝を果たしました。また、第43回全国高等学校総合文化祭での山村君の5位入賞や、昨年末の第18回中国地区高等学校将棋選手権大会における山村君の準優勝、大中君の第3位など、上級大会での上位入賞が相次ぎました。

今年度の県内大会も、各方面の方々の温かい理解と支援をいただき、成功裡に終わることができました。今後とも将棋の文化が高校生の皆さんの豊かな人生と友情を育む一助となるように願っています。なお、各大会の結果や参加者の感想については以下のとおりです。

1 第41回山口県高校総合文化祭将棋部門

令和元年5月25日(土)・26日(日)

防府市文化福祉会館

男子団体 参加9校30チーム

- 第1位 徳山高校A (大中 智哉・井上 昂也・福田 智章)
- 第2位 下関西高校A (前田 晴貴・木田 清太・小倉 雅博)
- 第3位 下松高校C (佐々木 翼・清水 貴大・浅原 大暉)
徳山高校B (柳 凜・兼重 征樹・山田 佳拓)

女子団体 参加1校1チーム

- 第1位 徳山高校 (稲 亜樹佳・山口多香子・西村奈々英)

男子個人 参加11校101名

- 第1位 山村 泰楊 (慶 進1)
- 第2位 石田 悠真 (徳 山2)
- 第3位 小倉 雅博 (下関西2)
木田 清太 (下関西2)

女子個人 参加3校6名

- 第1位 須濱明日未 (下 松3)
- 第2位 上田真由香 (防 府2)
- 第3位 飯干 智美 (徳 山2)



県総文 対局の様子

2 第43回全国高校総合文化祭将棋部門

令和元年7月30日(火)・31日(水)

佐賀県杵島郡江北町ふれあい交流センター

男子団体 徳山高校 予選リーグ1勝3敗45位

女子団体 徳山高校 予選リーグ2勝2敗13位

男子個人 山村 泰楊 (慶 進1) 予選リーグ3勝1敗10位予選通過
決勝トーナメント5位入賞
石田 悠真 (徳 山2) 予選リーグ0勝4敗92位

女子個人 須濱明日未 (下 松3) 予選リーグ2勝2敗37位
上田真由香 (防 府2) 予選リーグ1勝3敗78位



男子個人(山村 泰楊) 5位入賞

第43回全国高校総合文化祭将棋部門に参加して

山口県立徳山高等学校 2年 稲 亜樹佳

私は2年の夏、女子団体戦山口県代表として参加させ

ていただきました。実際に大会会場で感じたのは大きな重圧感でした。何しろ個人戦とは違い、団体戦では自分の勝敗がチームの勝敗に大きく関わってきます。

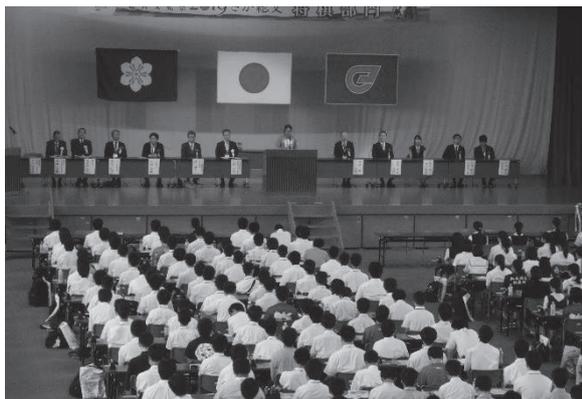
1回戦2回戦は勝利し、3回戦目。そこで今大会準優勝の静岡県代表と当たりました。正直太刀打ちできず、あっさりと負けてしまったのは苦い経験ですが、同時に全国大会のレベルを知るよい経験になりました。

そして、予選最終戦となる4回戦目。この対局に勝てば予選通過となる戦いで、1勝1敗、残るのは私の対局のみでした。お互い寄せに入っていてギリギリの戦いでしたが、私が1手遅く負けてしまいました。後に棋譜を見返すと安易なミスが多く、自分の基礎力や練習量の不足を強く実感しました。

今回の大会で何よりも学んだのは、積み重ねる練習量が勝敗を分けるということです。これは勉強やスポーツにも言えることです。今大会で学んだことを活かし、来年また同じチャンスがつかめるよう頑張ります。



女子団体(稲 亜樹佳・西村奈々英・山口多香子)



大会の様子

3 第24回山口県高校将棋新人大会兼山口県高文連将棋専門部研修会

令和元年11月3日(日)

防府市文化福祉会館

男子個人 参加10校61名

第1位 山村 泰楊(慶 進1)

第2位 大中 智哉(徳 山2)
第3位 石田 悠真(徳 山2)
井上 昂也(徳 山2)

女子個人 参加3校6名

第1位 稲 亜樹佳(徳 山2)
第2位 上田真由香(防 府2)
第3位 西村奈々英(徳 山2)

敢闘賞 弘中 颯真(下関西1)

石坂 駿(徳 山1)

研修会(指導対局、大盤解説)

解説 田中 佳久 中国名人

審判 藤井 佳久 山口県名人

4 第18回中国地区高校将棋選手権大会(島根大会)

令和元年12月14日(土)・15日(日)

島根県松江市 島根県民会館

男子個人 参加32名

山村 泰楊(慶 進1) 4勝1敗 2位入賞
大中 智哉(徳 山2) 4勝1敗 3位入賞
佐藤 陽樹(岩 国2) 2勝3敗
長田 昂(防 府2) 2勝3敗
石田 悠真(徳 山2) 1勝4敗
井上 昂也(徳 山2) 1勝4敗

女子個人 参加16名

稲 亜樹佳(徳 山2) 2勝2敗
上田真由香(防 府2) 3勝2敗
西村奈々英(徳 山2) 1勝3敗

5 第27回全国高文連将棋新人大会

平成31年2月1日(金)・31日(土)

岡山県玉野市 ダイヤモンド瀬戸内マリンホテル

男子個人 参加96名

大中 智哉(徳 山1) 3位入賞
浜崎 光司(下 松2) 予選1勝3敗

女子個人 参加131名

須濱明日未(下 松2) 予選3勝2敗
上田真由香(防 府1) 予選2勝3敗
稲 亜樹佳(徳 山1) 予選2勝3敗

各部門の報告

小倉百人一首かるた部門

理事長 青 池 のぞみ
(山口県立小野田高等学校教諭)

1 部門の活動報告

小倉百人一首かるた部門が発足して7年が経ちました。様々な方々から御指導をいただき、少しずつ組織として前進しています。

平成30年度には、競技かるたが、部や同好会として活動している学校が県内で5校に増え、切磋琢磨しています。

かるた競技は、「畳の上の格闘技」といわれています。静寂と美しい日本語の調べのなかで自己と向き合う高度な集中力と記憶力、相手に勝る瞬発力、そして常に冷静な判断力、長時間の対戦に耐え得る精神力や体力が求められる厳しい競技です。また、美しい振る舞いや相手を敬う人間性も必要です。山口県では、かるた協会と協力しながら選手育成をおこなっています。合同練習会や錬成会を実施し、各種大会でも好成績を収めています。

かるたに向き合って集中し、日々厳しい稽古に取り組んでいる生徒の顔は、とても熱く輝いています。山口県から、未来の名人・クイーンが育つことを期待しています。



県総文(全国総文代表選考会・かるた選手権大会予選会)



中国地区高等学校小倉百人一首かるた大会山口県予選会

2 第41回全国高等学校小倉百人一首かるた選手権大会

滋賀県大津市の近江神宮で毎年開催される、「かるたの甲子園」と呼ばれる伝統と名誉ある大会です。

今年は7月19日(金)～21日(日)に開催されました。

団体戦 慶進高等学校 1回戦出場

個人戦 B級第3位

山口県立小野田高等学校 3年 伊藤綾那

D級第1位

慶進高等学校 1年 福間琴乃

D級第2位

慶進高等学校 1年 原田結衣

D級第3位

山口県立小野田高等学校 2年 時廣美優

慶進高等学校 1年 村田結花

D級第4位

山口県立小野田高等学校 2年 加来光莉
山口県立小野田高等学校 1年 田村奈津美
慶進高等学校 2年 石飛真由子



団体戦 慶進高等学校

3 第43回全国高等学校総合文化祭小倉百人一首かるた部門

7月30日(火)～8月1日(木)の3日間、佐賀県佐賀市の佐賀県立総合体育館において開催されました。

山口県は3校合同8名での出場となりました。

団体戦	山口県チーム	予選リーグ第2位
山口県立小野田高等学校	3年 伊藤綾那	
	3年 大島舞衣	
	3年 平田望希	
	2年 山口神生	
山口県立宇部高等学校	3年 吉村和	
	1年 梶原有加里	
慶進高等学校	3年 時吉知春	
	1年 山岡紅葉	

第43回全国高等学校総合文化祭に参加して

山口県立小野田高等学校 3年 伊藤綾那

私は山口県代表選手の三将として出場しました。一回戦の相手は鹿児島県でした。私は序盤に大量リードをし、油断したため、負けてしまいました。チームのみんなに申し訳ない気持ちでいっぱいでした。しかし、チームは後輩の活躍によりなんとか3勝2敗で勝つことができました。二回戦の相手は大阪府でした。私は、序盤に大量リードを奪われる苦しい展開でした。しかし、そこから追い上げを見せ、なんとか食らいつも惜敗しました。チームも1勝4敗と敗れ、とても悔しかったです。三回戦の相手は島根県でした。私は圧勝することができました。チームも4勝1敗で勝利し、予選突破できなかったものの、有終の美を飾ることが

できました。

この悔しさと楽しい思い出を胸に、これからも努力を怠ることなく、誰にも負けない選手になります。

山口県立小野田高等学校 3年 大島舞衣

私は、昨年六将として出場しましたが、今年は四将として出場し、嬉しく思う反面、多くのプレッシャーを感じました。昨年は、移動の時や試合の苦しい場面では、先輩に頼ってばかりだったので、今年は三年生として責任ある行動をとるということを第一に考えて行動しました。

試合では、緊張もあったけれど、落ち着いて札を取ることができましたが、相手陣を抜けきれないところやお手つきをしてしまったところがあったので、気を付けようと思いました。チームメイトは苦しい場面で励ましてくれたり、声をかけてくれたりと、感謝しかありません。

かるた部に入って、礼儀や挨拶、五分前行動など社会に出てから必要な多くのことを学ぶことができました。運動音痴な私が初めて熱中できた競技で、三年間悔しいことやつらいこともあったけれど、とても楽しかったです。来年の全国総文では、私達が行けなかった決勝リーグに山口県が進んでほしいです。

山口県立小野田高等学校 3年 平田望希

私は、「全国総文」という大きな大会に県代表として出場しました。昨年出場できなかった悔しさを晴らす一心で予選会に挑み、中級の部で優勝でき、出場することができたので、とても嬉しかったです。

私は七将としてチームに貢献するために、相手チームの観察やチームを支える役目、また試合に出た時は、あきらめずに最後の一枚まで全力で戦う役目という心構えでこの大会に挑みました。私が試合に出た時の相手は、大阪府のチームでA級でした。いつも大会に出場する時は、とても緊張して、気持ちで負けてしまうことが多かったけれど、今回は「あきらめない」気持ちが強く、緊張せずに最後まで力を発揮できたので良かったです。

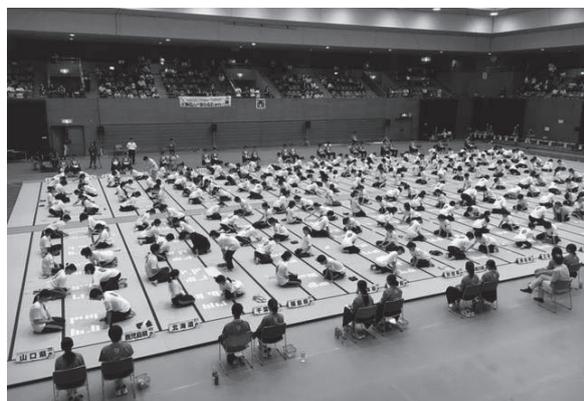
この全国総文を通して、県内でおこなうかるたとは違い、気迫のあるかるたを感じました。また色々な人と交流する楽しさや、嬉しさ、かるたの試合に必要なあきらめない心を持ち、今後に活かしていきます。

山口県立小野田高等学校 2年 山口神生

「全国総文の山口県選手団に入ること」、これは昨年の夏に立てた目標です。昨年の予選会は代表枠に入るには

遠い成績でした。それが悔しくて目標を立てました。目標を立てても時間が経つと忘れて、気付いた時には遅かったということが多々ある私ですが、今回は違いました。目標に向かって努力し、最後の一寸ではあったが、結果を出すことができました。それまでの一年間が報われた気がして嬉しかったです。そして、県代表選手として全国総文に行くにあたって一つの目標を立てました。それは、「みんなのサポートを全力でし、試合に出る選手が何の心配もなく、実力を発揮できるようにすること」でした。みんなが少しでも後悔しないようにこの目標にしました。それに、これを目標にできるのは、二年生の私しかいないと思ったからです。総文期間中、全力でサポートしたつもりなので、みんなの役に立てていたら嬉しいです。

この充実した三日間をくださった先生、両親、選手団の皆さん、ありがとうございました。



会場風景

山口県立宇部高等学校 3年 吉村和

佐賀総文は私にとって最後の総文でした。今年は絶対に決勝リーグに行こうと誓い、チームキャプテンとしてみんなの様子を見ながら試合運びつつ、全勝することを目標にして試合に臨みました。

しかし一回戦で相手の主将と対戦し、焦りでお手つきを連発し、負けてしまいました。チームとしては3対2で勝つことができましたが、勝ちに貢献できなかった自分を情けなく思いました。その悔しさをばねにその後は早く勝って、みんなへの声かけをすることができました。特に三回戦では格上相手に大差で勝つたので、個人としても嬉しかったし、チームにもいい流れを作ることができました。

決勝リーグには行けなかったけれど、とても楽しかったです。チームのみんながいなくては一勝もできない団体戦は、仲間の大切さを教えてくれました。団体戦経験の浅い私のようなキャプテンを支えてくれたみんなに感謝の気持ちを贈りたいです。

山口県立宇部高等学校 1年 梶原有加里

全国総合文化祭。私は、中学生の時からずっと、この大会に出場することを心待ちにしていました。

今年の大会は、今までたくさんお世話になった先輩方と一緒に行かせてもらうことができました。だから、これまでの恩返しとして、一勝でも多くチームに貢献できるよう、精いっぱい頑張りました。でも、勝つことだけに集中しすぎて、周りのことは目に入っていませんでした。このことも、予選2位という結果につながってしまったと思います。よく団体戦は個人戦と言われています。でも、個人がどれほど強くてもチーム力がなければ、相手チームの威圧に押され、負けることもあり得るはずですよ。

いつも優しく接してくださった先輩。そんな憧れの先輩方との、最初で最後の団体戦。絶対に決勝リーグに残る、そう誓ったのに予選で敗退してしまい、悔しい形で終わってしまいました。

来年は、全国で一番強い中学生も高校に上がってきます。絶対に、来年もう一度主将として出場し、今年の悔しさを力にして、必ず決勝リーグへ進みたいです。

高校生になって初めての夏。その年に山口県の選手として、主将として出場することができ、本当に良かったです。



試合風景

慶進高等学校 3年 時吉知春

僕は高校総文に出場し、最初に違和感をもちました。そ

れは出場者全員が同じユニフォームを着て競技していたことです。その様子は各団体チームだけでなく、高校生全体としての一体感を感じさせるものでした。

僕はこの大会での目標を立てていました。それはどのような場面でも相手陣を攻めることです。その結果、僕のイメージ通りに展開が進んでいきましたが、運命戦で負けてしまいました。その理由は戦法の慣れだけでなく、自身の暗記や勝負強さにも問題があったと思います。

この大会では個人戦とは違い、励ましてくれる仲間がいたので焦らず落ち着いた状態で取ることができました。今回はチームのメンバーに励まされてばかりで、僕から励ますことが少なく、さらにチームの一勝を挙げることができなかったのも、これから仲間と協力する様々な場面では自分の役割をしっかりと果たし、仲間を支え、目標を達成できるようにしたいです。

慶進高等学校 1年 山岡紅葉

今回高校総文においてたくさんの方々に応援していただき大変うれしく思いました。

初めて参加した高校総文で、一試合目に出させていただき、勝ったことで、すごく自信になり、来年の高校総文に向けても良い経験となりました。私は、その一試合しか出ないと分かっていたので、全神経をその試合に集中させることができました。序盤は、相手と五分五分の試合をしていました。しかし、中盤にさしかかる時には、7枚差くらいで負けていました。周りを見ると相手に追い上げられている仲間の姿を見て、絶対に負けたくないと思いました。そして、終盤、相手のお手つきがあり、自分に流れが来たと感じました。そこで、自分の取りをすることで勝つことができ、チームの一勝に貢献し、大きな経験をすることができました。最後まであきらめずに試合に挑むことの大切さを改めて実感できる大会となりました。

来年は、予選を突破し、ベスト8に入りたいです。

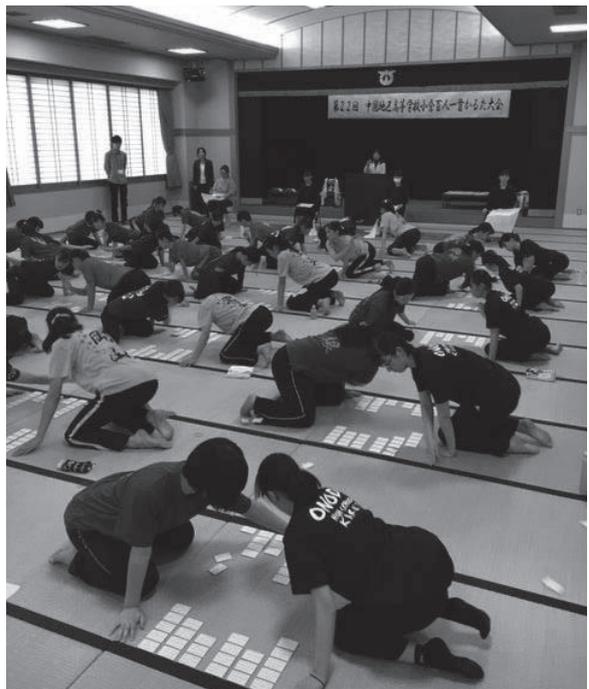


山口県合同チーム

4 第22回中国地区高等学校小倉百人一首かるた大会

11月9日(土)～10日(日)に、鳥取県大山町の大山町保健福祉センターだいせんで開催されました。昨年の中国大会の成績から山口県には2チームの出場枠が与えられました。

団体戦 山口県立小野田高等学校 第4位
慶進高等学校 予選リーグ第3位



大会の様子

文芸部門

理事長 河 井 昌 枝
(山口県立西京高等学校教諭)

1 俳句甲子園 山口会場大会

俳句甲子園の地区予選が6月9日に防府アスビラートで開催された。昨年の全国大会の覇者徳山高校(1チーム)、高森高校(2チーム)、柳井商工高校(1チーム)、計4チームが出場した。4試合が終わったところで、各チームとも1勝1敗で並ぶという、白熱した好試合ばかりであった。

徳山高校と高森Aチームが2勝1敗と同じ勝率であったが、俳句甲子園のルールにのっとって、直接対決で勝利していた徳山高校が優勝し、8月19日の俳句甲子園に出場した。



柳井商工高校 対 高森高校B

2 第43回全国高等学校総合文化祭佐賀大会



全総文祭参加者

散文部門

防府高等学校 3年 中島 瑞季

私はこの佐賀総合文化祭の散文部門に参加し、7月30日(火)から31日(水)の二日間、全国の文芸部員の皆さんと交流しながら、文芸への関心を深めました。以下、その報告を記します。

参加初日、まず私たちは伊万里市民センター文化ホールにおいて全体交流会を行いました。それぞれ参加部門の違う五人一組になり、「佐賀のあいうえお短歌」を協力して作成したり、佐賀県に関するクイズを答えたりしました。初めは緊張しましたが次第に打ち解け、他の創作活動をしている皆さんとお話できたことはとても良い経験でした。

その後、それぞれの部門別交流会・分科会がありました。白石すみほ先生を講師としてお迎えし、午前中には、ことば・散文・書くとは何か、六、七人のグループになって考え発表し、散文を書く上での心得を講師の先生に講義していただきました。その中で特に私が印象に残っていることは、配られた資料の写真を見て、即興でショートストーリーを書いたことです。原稿用紙二枚以内という縛りはあったものの、完成した人から発表するという大変な課題でした。一つの同じ写真から多種多様な物語が展開されていくのを見て、私自身良い刺激を受けることができました。午後からは事前提出作品の講評会が行われました。講師の先生からは辛辣な言葉をかけられることもありましたが、私は先生が私たちの作品を高校生が作ったものとして扱うことなく真剣に向き合ってくださってくれていることが伝わってきて、とても嬉しかったです。交流や講評を通して様々な考え方や書き方、作品などが知れて、創作における技術が磨けたと思います。

参加二日目、記念講演会では、「笹井宏之の短歌一言葉の冒険」という題目で東直子さんから短歌の楽しみ方を学びました。事前に配られた短歌の解説に自身の考えも交え、分かり易く教えてくださいました。そのお話を通じて、自分の短歌の鑑賞の幅も広がったと思います。

以上の佐賀総合文化祭を通して、様々な方と交流できたことは、私において大変貴重な経験となりました。参加

するにあたってサポートして下さった方々、応援して下さった方々への感謝を忘れず今後その経験を活かしていきたいよう頑張ります。

詩部門

柳井商工高等学校 2年 久保麻千香

私は、7月28日(日)～30日(火)に、山口県の詩部門の代表として初めて参加した。

一日目は、開会式の後、文学研修が行われ、伊万里の名所大川内山、佐賀城本丸歴史館、三重津海軍所跡の順に散策をした。道中、47都道府県のまだお互いに出身地も名前も知らない人達と、自己紹介をし合い、趣味の話もするうちに、打ち解けることができた。同じ文芸を志す者同士、好みの傾向が似ている人も多く、バスの中でも歩いている時でも話が途切れることはなかった。

二日目はまず、全体交流会が行われた。チームに分かれて折句を作ったり佐賀県に関するクイズに答えたりして、昨日とは違う人たちと交流を深めた。次の詩の分科会では、班に分かれて、自作の詩を紹介した後班員みんなで鑑賞し、班内での代表作品を決めた。私が選んだ詩の作者も、私の詩を選んでもくれたのがとても嬉しかった。代表詩の発表後は講師の田口香津子先生が47人分の詩の講評を丁寧にして下さり、誰もが自分の詩の良さを客観的に知ることができた。その後は、詩の中の隠された言葉を考えたり、キーワードを組み合わせて作った題から即興で詩を作ったりした。みんなが感嘆する詩を作る人もいれば、思わず笑ってしまう詩を作る人もいて、全国の代表者のレベルの高さと、個性の豊かさに大いに刺激を受けた。詩の作り方は一つではないということが改めて分かったし、今回の研修で学んだ方法を部活動で活用していきたいと思った。

自分の成長につながる貴重な経験満載の二日間だった。



詩部門分科会(詩の鑑賞)

短歌部門

徳山高等学校 2年 清水 瞳美

私は七月二十九日から三十一日にかけて行われた佐賀総合文化祭短歌部門に参加した。総合文化祭は一日目に文学散歩、二日目に、部門ごとの分科会、三日目に講演会と閉会式という流れで行われた。以下、その報告をしたいと思う。

短歌部門では文学散歩で唐津方面を見て回った。初めに行った鏡山ではあいにくの雨で展望台まで登ることはできなかったが、高浜虚子の句碑や大伴旅人の歌碑を見ることができた。次に曳山展示場で「唐津くんち」と呼ばれる祭りに使われる曳山を見た。獅子や鯛、鳳凰など様々な形の曳山は間近で見ると迫力があり、人々の唐津くんちに対する熱い思いが伝わってくるようだった。そして最後には名護屋城博物館と名護屋城址を訪れた。この城はかつて豊臣秀吉が朝鮮出兵のために築いたものであり、今はその歴史から平和へのメッセージを発信する場となっている。高く積まれた石垣やそこから見下ろす唐津の景色はとても美しかった。

翌日の分科会では、まず、さいころを使った自己紹介で親睦を深め、それから上の句を見て下の句を当てる「下の句合わせ」をした。このレクリエーションは六チーム中五チームが全問正解という素晴らしい結果になった。そして、事前に「さわやか」という題で作った歌の感想をみんなで言い合った。その中でも特に多かったのは、漢字、カタカナ、ひらがななど表記についての指摘だ。それぞれの持つ雰囲気やそこから得られる効果などについて改めて考える良い機会となったと思う。私はこの題の歌で講師の先生から二席をいただいた。次の歌がその講師二席の歌である。

空色のスーツケースは開いたまま 僕はどこかへ行くはずだった

先生には上の句と下の句の間の空白が少しの寂しさや虚無感を感じさせている、と御講評をいただいた。

私はこの佐賀総合文化祭を通して、様々な歌に触れ、たくさんの人と交流することができた。特に全国の文芸を志す仲間たちと話をしたことはよい刺激になったと思う。みんな自分の考えをしっかりとっており、それを何とか言葉にしようと奮闘しているのだと感じた。今回受けた様々な刺激を普段の創作活動に生かし、よりよい作品を生み出していきたいと思う。

俳句部門

高森高等学校 2年 末廣 千鶴

私は7月30日に文芸部門の全体交流会と分科会(俳句)に参加しました。

最初の全体交流会では、短歌や詩など他の分科会参加者と一緒に短歌づくりやクイズをしました。

分科会では各県の代表が集まり、講師の近藤陽子先生とともに句会をしました。最初の選句では事前に提出された41句の中から各自三句選びましたが、良句が多く迷いました。その後の披講で私の「生物室肺魚が仰ぐ下り月」の句が選ばれ、近藤先生にも「肺魚の悲しさのようなものが伝わってくる良い句ですね」と講評をいただき、とても嬉しかったです。また、作句した方の住んでいる地域の気候などによって自分では思いつかないような句があって驚きました。

昼食後の句会では前日の文学散歩で作られた俳句を使いました。同じ場所を見てまわっていても人によって詠んでいる風景が違ったり、同じ風景を詠んでも全然違う表現がされていたりして面白かったです。句会の後に近藤先生が生徒一人一人の投句の中で生徒自身が気に入っている一句について講評をくださいました。私も、気に入っている「青星や優等生の丸眼鏡」の句の講評をいただき、言葉選びを褒めていただけて嬉しかったです。

今回、私は作句における言葉選びや着眼の大切さを改めて学ぶことができました。この経験を活かしこれからも言葉選びや細かな観察を大切に作句をしていきたいと思っています。



全体会の様子

文芸部誌部門

徳山高等学校 2年 岡崎 鼓子

私はこの佐賀総合文化祭文芸部誌部門に一日目から参加しました。以下、その報告を記します。

一日目、文芸部誌部門では神埼コースを回りました。最

初の佐賀城本丸歴史館では鍋島直正の歴史や城の構図を見ました。普通の城であれば殿様の座る位置が一段高くなっていますが、佐賀城には段差がなく鍋島直正は平等を重んじる人物だと思いました。次に行った下村湖人の家では湖人がどのような人物であったのかを学びました。変わり者だが努力を惜しまない人柄だと知りました。湖人の代表作の『次郎物語』は素晴らしい名作だと感じました。その後、吉野ヶ里遺跡では弥生時代の人々の暮らしについて体験しながら学びました。現代とは全く異なる暮らし方ですが、少し似ている部分もあり昔を学ぶことで、今発達した便利な暮らしが出来ているのだと感じました。この文学散歩をしたことによって自分自身の知識が広がり良い体験をすることが出来ました。

二日目、まず全体交流会を行いました。それぞれ参加部門の違う五人が組になり、あいうえお短歌をし、前日の研修に関するクイズに答えました。他の創作活動をしている方と話すのは自分にとってとても有意義な時間でした。

その後、それぞれの部門に分かれて分科会が行われました。文芸部誌部門では午前中からお昼過ぎにかけて和綴じ本を作り、各校の部誌について話し合い、良い部誌を決めました。和綴じ本の作成は意外と難しく私はとても時間がかかってしまいました。出来上がった和綴じ本は趣のある感じに仕上がりました。部誌の話し合いではそれぞれの学校の特徴や良さがたくさんありこれからの部誌制作の参考になりました。この経験を生かしてさらに良い文芸部誌を作りたいと思います。

三日目、記念講演では、東直子先生にいろいろなお話を聞かせてもらいました。笹井宏之の短歌についての講演でした。私はあまり短歌を作っていなかったのですが、このたびお話を聞いて短歌の奥深さを知りました。これからは短歌にも挑戦してみようと思います。

以上の佐賀総合文化祭を通して、様々な方と交流出来たことは私にとって大きな糧となりました。今後もこの経験を生かして頑張っていきたいと思っています。



文芸部誌部門分科会の様子

3 山口県文芸コンクール

【散文部門】

学校名	題名	学年	氏名	賞
山口	インベーダ	2	横山なづな	最優秀
西京	脳だけのともだち	2	佐藤 綾依	優秀
防府西	金魚の学校	3	藤田 朔実	優秀
山口中央	サイダーファイト	2	檜崎 慈音	優良
新南陽	アナタとワタシの恋模様	2	砂田春菜子	優良
萩	窓	1	川合 桃子	優良
西京	ほくろ	3	鳥本 侑希	入選
下関西	瑠璃と碧	1	木原 綾音	入選
徳山	予感	1	藤井 崇弘	入選
下松	死神さんと、君と「彼」	2	手嶋 紘平	入選
下松	家族更生	1	河村あかり	入選

【詩部門】

徳山	雨	1	尾上 純玲	最優秀
防府	哀鯨歌	2	村田 成美	優秀
徳山	溺れる	1	荒木 晴名	優良
下関西	ケムリ	1	木原 綾音	優良
萩	友	1	岡村 美也	入選
下関西	青き日の思い出	1	大住 星太	入選

【短歌部門】

光	あの子にだけ	1	深谷乃梨子	最優秀
徳山	マンションの	3	浅原 佑斗	優秀
防府西	絶え絶えに	3	藤田 朔実	優良
山口中央	そよ風に	3	高木 玲奈	優良
柳井商工	消しゴムで	2	山口みどり	入選
柳井商工	からっぽの	1	西元 水花	入選
徳山	短冊に	1	田中 来海	入選

【俳句部門】

徳山	丸文字の	3	浅原 佑斗	最優秀
徳山	浮草や	3	弘松 準平	優秀
徳山	真顔で打つ	1	尾上 純玲	優秀
西京	出嫁ごと	3	岡本 彩伽	優良
西京	風光る	3	鳥本 侑希	優良
徳山	自転車の	1	田中 来海	入選
徳山	立ち漕ぎの	1	浅村 芽衣	入選

4 文芸部顧問会議

10月11日(金)西京高校において顧問会議が行われた。主な議題はコンクール結果についての審議、来年度全国総文祭への派遣生徒の選定、来年度の理事長校の確認。

5 中国文芸道場中国文芸コンクール

11月9日(土曜日)に広島県福山市まなびの館で中国地区文芸道場および中国文芸コンクール表彰式があった。文芸道場では小説・短歌・俳句の各部門の審査員の先生方による勉強会があった。本県からのコンクール入賞者は下記の通り。(敬称略)

【文芸誌部門】 入賞なし

【詩部門】 佳作 徳山高校 尾上 純玲 「雨」

【小説部門】 最優秀 防府高校 村田 成美 『惹きあう孤独』

【短歌部門】 優秀賞 徳山高校 浅原 佑斗

【俳句部門】 優秀賞 徳山高校 浅原 佑斗



コンクールの様子

6 全国文芸コンクール結果

【短歌部門】 優秀賞 柳井商工高校 西元 水花 「祖父の乗る」
優良賞 徳山高校 尾上 純玲 「教科書の」

【俳句部門】 最優秀賞・読売新聞社賞

徳山高校 浅原 佑斗 「青嵐」



優良賞 尾上 純玲さん



自作の講評の様子

7 文芸研修会

3月21日(土)に防府商工高等学校で文芸研修会及び顧問会議を開催(予定)。

※新型コロナウイルス感染防止対策のため中止となりました。

自然科学部門

理事長 大田 和子
(山口県立宇部高等学校教諭)

今年度、自然科学専門部では 全総文祭佐賀大会にて4部門で研究発表を行いました。今年度は初参加の慶進高校と柳井高校、高川学園高校、宇部高校の参加でしたが どちらの高校も県代表として堂々と発表することができました。

本県では自然科学部の活動はあまり盛んではありませんが、部門立ち上げから9年が経ち、少しずつ活動の成果が見え始めてきたように思います。来年度の高知大会にも5部門で参加します。それぞれのテーマに向かって、日々研鑽を積まれることを期待します。

次に今年度全総文祭に参加した各高校の生徒の参加報告と感想を紹介します。

慶進高等学校 大久保 甲斐

私は今年、佐賀総合文化祭の自然科学部門に参加した。文化部のインターハイとも呼ばれるこの大会の自然科学部門は、その名にふさわしく素晴らしいものであり、私はただただ感嘆するばかりだった。他校の皆様の発表を拝見したが、電子顕微鏡や、蒸留装置など最新の設備を使った研究が数多くあり、もはや高校生のレベルを凌駕していたと思う。一方で私が通う慶進高等学校の科学部は設立から1年しか経っておらず、先輩が積み上げてきたデータもない中、研究をすることはとても大変だった。メンバーの中で意見の対立が起こったことがあったが今となってはよい思い出となっている。

巡検研修では、佐賀大学の唐津キャンパスを訪れた。大型の蒸留装置など、普段は見る事が出来ないものを見せていただき、よい機会となった。生徒交流会では、5人の他校の生徒と話す機会があった。ディスカッションのテーマは「自分の部活に生徒を勧誘する方法」という、私も一度は考えたことがあるテーマであり、積極的に発言が出来た。実行委員の皆様が理系の生徒の生徒交流会において、よいテーマを選んでいただいたことに感謝する。また、フェルミ推定では、1問目は正解と大きく違う数値を出してしまったもの、コツを掴み、2問目からは全員で意見を出し合い近い値を出す事が出来た。

記念講演会での森田先生のお話は本当に素晴らしい

ものだった。先生がおっしゃっていた、「2番ではダメです。科学は1番でないと」という言葉からは化学者としての強い信念が感じられ、研究者を志す私にとって忘れられない言葉となった。

私たちは青春をハツカダイコンに捧げた。しかしながら、実験のデータに穴があるなど、多くの課題があった。いつか自分が大学で研究する時はこの反省を生かしたい。また、私たちは高校からも部活動からも初の参加であり、道を切り開く役目を果たした。あとは後続のためにデータをまとめ、今後も私たちの科学部から総合文化祭自然科学部門への参加者が出ることを期待している。

慶進高等学校 大木 貴敬

8月27日から8月29日にかけて、私は初めての高校総合文化祭に参加した。全国から意識の高い高校生が集まっていた、同じ高校生徒とは言っても輝いている人もたくさんいた。他校の研究発表を拝見したが、中には実験回数を多くして、丁寧な実験をしていて素晴らしいものもあった。また、電子顕微鏡など高等学校では使うことが難しい実験器具を使用して研究を行った学校や、先輩が代々続けてきた実験の継続研究を発表していた学校があった。しかしながら、私たち慶進高等学校にとって高校総合文化祭に出て、研究を発表するのはおそらく初めてだった。そのため、先輩方が築き上げた実験データや研究成果が全くない中で始めた実験を発表したから、研究をする環境に差があると感じた。

巡検研修で佐賀大学農学部の唐津キャンパスを見学できたのはいい機会だった。この折に、佐賀大学の施設を見学して、塩ビパイプに植物を入れて育てるというアイデアや普段見ることのできない蒸留装置などの研究設備を見ることができ、とても興味深かった。私にとって初めての研究発表で準備の段階でスムーズにうまくいかないことや意見の対立、時間の制約など様々な困難があったが、何とか発表を終えることができ、貴重な経験となった。

生徒交流会について、今まで知り合ったことのない他校の科学部の生徒と交流する機会をめぐらしたにない貴重な機会だった。初対面でも積極的に話しかけてくれる人もい

て、ちょっとした雑談などをするのは楽しかった。また、生徒交流会で行われたフェルミ推定では、課題に対して6人で考え、意見を出しあった。意見がまとまらないこともあったが、第二問では他の人の意見を参考に私が自分なりに計算方法を考えた。普段の勉強で身につけてきた有効数字の考え方や計算の工夫で答えに近い値を出すことができたので、興奮した。

記念講演会での森田先生の話はとても素晴らしかった。将来研究者を目指す者として、研究に対する向き合い方や持っておくべき資質など、参考になることであふれていた。

私たちは約半年間、総合文化祭での研究発表のために準備をしてきた。しかし、実験データの不足や考察につながる検証実験ができていないなど、至らないことも多かった。採れる実験データはできる限り多く採っておくことや考察の仕方などの経験を生かして、大学で研究するときなど再び機会があれば、より良い研究をしたい。



研究発表(生物) 慶進高等学校

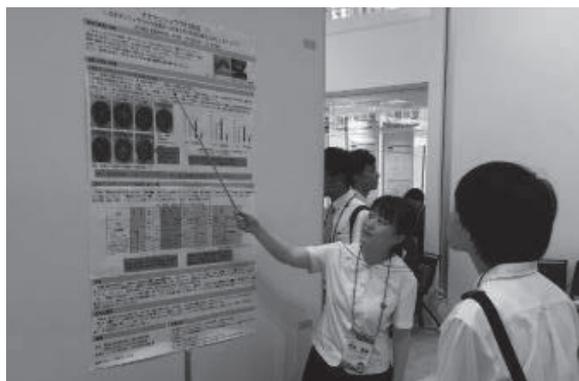
高川学園高等学校 荒地 香澄 田中 美伶

私たちは、佐賀総合文化祭2019のポスター部門の発表に参加しました。初めての参加で、とても緊張しました。科学部では、これまで、先輩がオオサンショウウオの生態について研究しており、私たちも科学部の先輩の研究を参考に、オオサンショウウオの粘液について研究しました。今回私たちが発表したテーマは「オオサンショウウオの皮膚から分泌される粘液の成分とはたらきについて」でした。

私たちは、オオサンショウウオの調査に行ったときに、オオサンショウウオが怒ったときに出すくさい粘液が何なのか、疑問に思いました。そして、怒ったときに出す粘液には、敵から身を守る役割があるのではないかと考え、粘液の毒性を調べる実験を進めました。しかし、実験方法が確立しておらず、自分で実験方法を考えることがとても大変でした。精度の高い実験結果を求めて、何度も実験を

やり直しました。そのため、本番ギリギリまで実験を行っていました。

発表は、はじめはとても緊張していたため、うまく喋れませんでした。徐々に慣れてきて、うまく発表できるようになっていきました。ただ、審査員の方とのやり取りになると、緊張をしてしまって、うまく自分の考察が伝えられたか、質疑応答で適切な受け答えができたのか…と、反省しています。また、発表の合間に、他校のポスター発表を聞きました。研究内容はもちろん、発表の仕方やパフォーマンスがとても上手な学校が多く、とても勉強になりました。



ポスター発表 高川学園高等学校

巡検では、佐賀城本丸歴史館・三重津海軍所跡を見学しました。三重津海軍所跡は、スマートホンを使ったVRのような装置を使って、昔はどのような場所だったのかを再現した映像を見たのが、とても新鮮でした。

最終日の生徒交流会では、他校の人とグループになり、クイズを解いてグループごとに競い合いました。クイズでは、フェルミ推定をしました。残念ながら、勝つことはできませんでしたが、同じグループの人と、一緒に悩んだり、考えたり、クイズの結果を聞いて落ち込んだり、とても楽しかったです。

総合文化祭で、自分が発表することはもちろん、他校の発表をきくことで、まだまだ私たちも研究内容を深めていく必要があるな、と思いました。また、次回、もっといい発表ができるように、これからも頑張っていきたいです。



巡検研修の様子

柳井高等学校 小川 優作

私は、自然科学の化学部門において、「テルミット法によるルビー・サファイアの合成」というテーマで発表しました。本番に向けて発表の練習を重ねてきましたが、本番では緊張してしまい、あまり納得のいく発表とはならなかったものの、何とか発表し、質疑応答も何とか対応できました。また、その質疑によって今後の課題や別の見方もあるという発見がありました。

その他の時間は、他の学校の発表を見ました。特に驚いたのは、パワーポイントの精度と研究の歴史です。まず、パワーポイントについてはグラフや表などを用いて詳しくまとめており、中には大学の協力で研究し、詳しく数値化したものをまとめていました。次に、研究の歴史です。その学校で課題を見つけ、何年も引き継いで研究している学校が多くあり、驚きました。

柳井高等学校 藤井 暁久

発表の役割分担として、一人発表一人パソコン操作としました。しかし、練習不足と緊張のため声が小さくなってしまい、また、発表者と操作側の連携がうまくとれずに止まってしまうことがありました。

他校の生徒や審査員の先生からの質問にはおおむね答えることができましたが、審査員の先生からはデータ収集の甘さや不備が指摘されました。今後は実験回数を増やし、正確なデータを取ることで改善し、さらにこの研究を突き詰めていきたいと思いました。

柳井高等学校 白木 大晴

私は主に化学部門の発表を聴いていましたが、どのグループも私たちとは違う観点から化学現象を見つめ独自の研究に取り組んでおり、大変刺激を受けました。化学の授業で習ったことや日々の生活の中で見つけた疑問などの身近なものから、社会の役に立とうという目的によるもので、様々なテーマの研究が発表されていました。中には私の化学的な知識が及ばず、理解が難しいほどの高度な研究もあり、さらなる化学への学習、研究を深めていく必要があると感じました。

発表を聴いていて感じたことのひとつとして、研究における実験の丁寧さがあります。正確なデータを得るために何度も同じ実験を繰り返したり、徹底して対照実験を行っていたりしており、研究に対する態度について改めて考えさせられました。また、発表の方法にも工夫が凝らされており、今回私たちが学んだことを今後のプレゼンテーショ

ンに活かしていきたいと思います。例えば発表の中で実際に実験を見せていたグループもあり、言葉や映像で示されるよりも分かりやすく、深く印象に残りました。今回私たちが学んだことを後輩たちに伝え、柳井高校物理化学部の成長につなげていきたいと思います。

柳井高等学校 初崎 和寿

佐賀総文の巡検体験では、「ゆめぎんが」こと佐賀県立宇宙科学館に参加しました。施設としては、防府市の「ソラール」のようでした。模型やアクティビティ等を用いて、天体のしくみや宇宙についてなどを深く学ぶことができました。

有難いことに特別にバックヤードを見学させていただきました。特に印象に残っているのは、何気なく展示されているように見える標本の維持の難しさです。小さな虫が入らないように、特殊装置を用いて常に警戒されていました。標本の下には小さな用紙に小さな文字で、品種名、作成日、作成者名が記されており、標本展示を見る際には注目してみようと思いました。バックヤードを知ったことで、科学館はスタッフさんの努力の賜物だと感じ、見方が変わりました。

佐賀総文には、全国から高校生が集まる機会なので「生徒交流会」というものがありました。各県の高校生が一人ずつランダムで数名のグループに分けられて、挨拶やクイズ等を行いました。始まる前は初対面の方ばかりの中に一人だけという状況が少し怖かったのですが、生徒交流会が始まると、すぐに打ち解けることができました。よほどのことがない限り、一期一会な出会いは本当に楽しくて、生徒交流会終盤では、終わってしまうことが寂しく感じました。



研究発表(化学) 柳井高等学校

宇部高等学校 村上 麻依

1 研究発表について

私は、「植物から水を得る」というテーマで佐賀総合文化

祭自然科学部門の地学部門で発表を行った。

私は植物の内部と表面の二通りから、水を得る方法を考え、より多くの水が得られる条件を調査した。研究発表は計画通りに進み、質問にも自分なりに答えられた。しかし、審査員の方に実験方法についてのアドバイスを頂き改めて自分の研究の中で詰めが甘い所を発見したので、今後の研究ではこれまで以上に綿密に計画を立てようと思った。また、他の研究グループの発表からも新しい見識や実験方法のヒントを得ることができたので今後の研究に役立てたい。



研究発表(地学) 宇部高等学校

2 巡検研修への参加について

私は、農学部附属アグリ創生教育研究センターの研修に参加させて頂いた。現地では、研究室の見学や育成している植物の観察、簡単な化学反応を用いた実験などを行い、研究室でしか見聞きできない貴重な体験をすることができた。その後、鏡山にバスで登った。山の上の展望台からは唐津の地形をみることができた。日本三大松原の虹の松原や唐津湾など、見晴らしもよく唐津市の広大な自然を楽しむことができた。また、山頂には日本三大悲恋物語で有名な松浦佐用姫像があり、日本の古典文化に通じるものを感じることができ、とてもしみじみとした情趣を感じる事が出来た。



巡検研修の様子

3 生徒交流会・特別講演などについて

生徒交流会では、県外の生徒と話す機会を得ることができた。フェルミ推定など数学的な思考や知識を必要とする問題を協力して解くことで交流を深めることができた。特別講演では、九州大学理学部の森田浩介教授が「新元素の探索」というテーマで講演して下さった。

佐賀総文祭では、自分たちが発表するだけでなく、交流会や研修会への参加を通じて他県の高校生と交流ができた点が刺激的であった。今回の体験を今後の高校生活にも生かしていきたい。



生徒交流会の様子

最後に、

自然科学部門の立ち上げから9年、理事長を務めさせて頂きましたが、今年度で部門から離れることになりました。高文連事務局に所属してから11年、大変貴重な経験をさせて頂き、感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

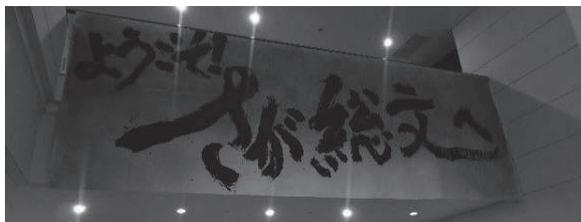
全国高等学校総合文化祭に参加して

山口県立下関中等教育学校
馬 水 愛 加

私は、佐賀県佐賀市で行われた全国高等学校総合文化祭の総合開会式に、山口県代表として参加しました。私は書道部に所属しており、総合文化祭に憧れはあったものの、総合開会式については何も知りませんでした。全国の高校生と交流できることは楽しみでしたが、県代表が私に務まるのかという不安も大きかったです。

総合開会式への参加が決まった際に2つの宿題が課せられました。1つ目は山口県発祥のものを紹介するというものです。当初、私は山口県発祥のものをあまり知りませんでした。しかし、よく調べてみると、道の駅やふぐ料理、ウニの瓶詰等たくさんのものであり、地元山口県のことを改めて深く知る機会にもなりました。そこで、今では全国で盛り上がるイベントでもある、日本のクリスマスが山口県発祥のものであることを知り、これを今回の「さが総文」で紹介し山口県の歴史を違う視点で知っていただこうと考えました。また、2つ目の宿題は山口県のPRとなる言葉を考えるものでした。山口県には歴史や美味しい特産品が多く、1人では決めることができず、生徒会の仲間と一緒に考えました。議論の末、「福を呼ぶ ぶちうまいっちゃ フク料理」に決めました。特産品であるふぐと方言を織り交ぜ、多くの人に山口県の魅力を知ってもらえるようお願いを込めました。

本番前日に佐賀に行き、引率の先生と一緒に夕食で出た佐賀の名産佐賀牛をおいしくいただきました。



本番当日、会場に行く道中に多くの総文の旗を見ながら、楽しさの反面、緊張も増していったことを覚えています。会場に着くと全国各地から都道府県代表の人たちが集まっていました。誰にも話しかけることができず、不安でいっぱいでした。その後、ホールの席に案内され、リハーサルの説明が始まりました。受け付けや案内、リハーサルの説明をしてくれたのはみんな私と同じ高校生で一人ひとりが自分の役割を全うしていてすごいなと思いました。説明ののちステージに案内され、リハーサルが始まりました。

リハーサルは2時間ほど行われました。ここで私が驚いたのは、初対面の人たちが初めて行うことなのにたった2時間という短い時間で全員が各自の動きをすぐさま理解し、ミスなく一致団結できたことです。さらに、佐賀県の実行委員の方が3年間綿密に打ち合わせを行い、「さが総文」の成功のために準備や練習をしてきたことが分かり、私も普段の学校生活において、生徒会執行部の一員として学校行事を円滑に進めるためのお手本になりたいと思いました。リハーサルが終わると控室に移り、昼食休憩の時間になりました。そのときに「さが総文」のパンフレットや記念のノートなどをいただきました。また、佐賀の代表的な工芸品である佐賀錦で用いる網代紋様がデザインされたバッジもいただきました。休憩中には他県の代表生徒と交流ができ楽しかったです。本番はすごく緊張しましたが、自分ができることを精一杯果たすことができました。



今回の「さが総文」に参加したことで、全国の高校生で一つの素晴らしいステージを作り上げるという貴重な経験をすることができました。このような機会を与えてくださった山口県高等学校文化連盟の方々に感謝するとともに、今後の学校生活や生徒会活動に活かしていこうと思います。



自主事業・補助事業の報告

《自主事業》【世界音楽旅行「ピアノとバイオリンのコンサート」】 熊毛南高等学校

【生徒感想①】

普段わざわざ行かないと、こういうコンサートとか行くことができないので学校という場で聴くことができ、とても良い時間を過ごすことができました。日々の疲れや、考えているいろいろなことなど、この時間だけ、音楽を聴くことによって一時的に忘れられ、音楽の世界に入ってしまった。トークでのバイオリンとピアノの豆知識や、世界の音楽についての話などを聞くことによって知識の量が増えたと思う。また、質問コーナーでは変化球のきいたいろいろな質問にしっかりと応えてくれて、とても良い人たちだなと感じた。そこでこれからの人生について大事なことを聴くことができた。あのような偉大なプロの音楽家の方達でもずっと音楽ばかりやっていたわけではないことに驚いた。人生はいろいろな経験をするのが大切なのだと改めて学ばせていただいた。



【生徒感想②】

プロの演奏を聴く機会はなかなかないので、とても良い時間でした。最初に演奏が始まった瞬間、音の美しさにとっても感動しました。バイオリンとピアノの綺麗な音を作る音楽は、本当に美しかったです。また、二曲目に区切って情景の説明を聞き、その後に演奏を聴けたのは、とてもわかりやすかったです。ただ音楽を流してきくのではなく、場面を想像しながら聴くと音楽にストーリーを感じることができて楽しかったです。曲の中でも、最後の日本の音楽は落ち着いた曲の雰囲気に楽器の音色がとても合っていて、聴いていて穏やかな気持ちになれました。メドレーの曲の移り変わりも好きでした。ヨーロッパやアメリカ、アジアなど、曲に込められた各国の空気間や文化を感じられた気がします。音楽で世界を旅行できるなんて、とても素敵な時間でした。また機会があれば、バイオリンやピアノ、それ以外でも、プロの音楽に触れたいと思います。



《自主事業》【はなしの伝統芸能「落語」】

南陽工業高等学校

【生徒感想①】

今回実際に生で落語を見てみて、改めてテレビとの違いを感じました。生で見るときは声の大きさやトーン、強弱でより情景を思い描くことができたので、とても楽しく考えながら聞いてみることができました。また、前に出て話しているだけなのに、ここまで多くの人が興味を持って聞き入ることができるので、とても話し方や内容に工夫をされているのだと思い、流石だと感じました。

何時間も止まることなくしゃべり続けるだけでなく、言葉に詰まりもせずに話せるところはものすごく真似したいと思いました。

相手により分かりやすく、そして興味を持ってもらえるような話し方を勉強するという意味でも今回の公演はとても良いものだと思います。



【生徒感想②】

僕は生で落語を聞いたのは初めてで、落語をする人は言葉だけではなく、そばを食べたり本を読んだりする仕草を実際にやっているように見せたりすることで聞いている人を話に引き込んでいくような技術を持っていてすごいなと思いました。

今日は2つの話だけだったけど、他にもいろいろな種類の落語があると聞いたので家で聞いてみたいと思いました。

日本の伝統芸能である落語をわかりやすく伝えて下さったので今まであまり興味はなかったけど、今日の公演を

きっかけに座布団とか手ぬぐいなどにも注目してみたいなと思いました。



《自主事業》【巡回演劇「宇部芸術座」】

熊毛北高等学校

【生徒感想①】

とてもドキドキしながら見ることができました。登場人物の葛藤がすごく感じられて、その中ですれ違ったり、種族をこえて分かり合ったりと物語が進んでいくのがとてもおもしろかったです。

笹の葉で笛を吹いている場面の音楽、照明、演技がすべて息が合っていたところが、一番印象に残りました。ほかのステージから後ろを指さして「ほら！あそこの〇〇」と言われた時に、思わず後ろを見てしまうなど、とても劇の世界に入りこんで見ることができました。ステージと席との位置が近く、皆さんの表情もしっかりと見ることもでき、とても楽しい時間をすることができました。

普段はなかなかすることのできない体験をでき、とても楽しく過ごすことができました。お忙しい中、公演をして下さり本当にありがとうございました。



【生徒感想②】

べっかんこ鬼の公演を見て、べっかんこ鬼がとてもゆきのことを想っていた心情と、少しずつ心を開いていくゆきの心情が深く伝わってきました。ゆきは最初お母さんの墓の前で「やっと二人きりになれたね」と言っていたので、村の

人たちにいじめられているのをお父さんに隠しているのかなと思いました。お父さんの娘のゆきを必死でさがして、やっとゆきをつれていった鬼を殺すことができたのに、ゆきに拒まれてしまったので、とてもつらいだろうなと思いました。べっかんこ鬼は、大好きな雪の目が見えるようになって良かったと思っているのではと思いました。ゆきは、大好きな鬼(夫)を殺され、しかも殺したのはお父さんだと分かってつらかったらうなと思いました。それでも鬼の忘れ形見である子供と一緒にべっかんこ鬼の分まで、子供と生きていくんだらうなと感じました。風たちも二人を見守って、べっかんこ鬼の分まで一緒に見守るんだらうなと思いました。



【生徒感想①】

「青春」というあらゆる形があり、難しいテーマの中で、こんなにも素晴らしく、また心にグッとくる劇場を目の前で鑑賞することが出来て、とても幸せだと思いました。ストーリーには重い雰囲気に包まれる場面も多々見られましたが、そこから展開していく希望に変わる瞬間には心打られました。何より劇団海峡座の劇員の皆さんによる演技には圧巻されるものがあり、声を聴いているだけで、秘めている思いや感情は伝わってきました。また、動作の1つ1つもまるで芸術のようで引き込まれるものがあり、もし自分があの立場にいたのなら...と考えさせられることもあって非常に楽しめました。



【生徒感想②】

今日は公演を開いて下さり、ありがとうございました。私

は今回で学んだことは2つあります。

1つ目はガリレオ・ガリレイが亡くなった後、1年後にニュートンが生まれた事です。バトンタッチをしてると言っていたのを聞いて本当に私はそう思いました。人はもしかしたら誰かに自分の思いを引きついで人間は生まれるのではないかと思いました。そして生まれた人は亡くなった人からのバトンを引きつがれていると思うと感動しました。

2つ目は私達が無気なく使っている物は色んな人によって作られていると思うと物を大事にしていたのを前よりも大事にしようと思いました。私達が生活していくのに必要なものは、時には動物を殺さないといけないのですが、色んな人によって私達の生活が安定されて、いつも通りの生活ができると思うと、私は早く大人になって色んな人の役に立てればいいなと思いました。



【生徒感想①】

私は、初めて目の前で劇団の方がする演劇というものを見させていただきました。ものすごく迫力があり、演劇とはこのようなものなのかと、とても勉強になりました。一番印象に残っているところは、声を出しながら、きびきびとした身振りや手振りをしているところです。私はステージから少し離れていましたが、声もきちんと届いて、動きも何をしているかが分かるぐらいで、とても見やすかったです。演劇という迫力のあるとても素晴らしいものを見られてよかったです。また機会があれば、もう一度見てみたいと思えました。

【生徒感想②】

演劇の劇団の公演を初めて見たけど、マイクなしで会場全体に高絵を届けるのはとてもすごいと思った。この公演の時代設定や場所の設定が、この辺りとは違い、日ごろ

使っている言葉使いとは違うものなので、それを使って演技をしている役者さんの日々の練習成果がよく伝わってきた。セリフも抑揚や、リズムをとったりして、とても分かりやすかった。こういう機会がないと、なかなか自分では見に行こうとは思わないので、いい体験ができたと思う。



【生徒感想③】

演劇を鑑賞していて、動きであったり、身振り手振りであったり、顔の表情などがとてもすごいなと思いました。悲しい気持ちの表情、必死に泳いでいるときの苦しい表情、楽しそうに笑っている表情など、とてもすごく、話の内容がわからなかったところも、表情で凄くわかりやすいなと思いました。そして声の大きさや口の開け方が見ていてとてもハキハキしていました。見ている人に伝わるように、分かるように表情一つであったり、声の大きさ、口の開け方などを工夫しているのかなと思いました。最後にみんなで歌った群読も、みんなの声が一つになったり、息が揃っていないと完成できないのかなと思いました。みんなの前で発表し

たり、発言したりするのはとても緊張しますが、劇団で堂々としている姿に、とても素晴らしいなと思いました。



《自主事業》【山口県交響楽団演奏会】

下関国際高等学校

【生徒感想①】

私が一番印象に残ったのはディズニーメドレーです。途中、トランペット、クラリネット、トロンボーンの方がスタンドプレイをされていたところがすごくきれいで感動しました。ラデツキー行進曲の時は3人の生徒と1人の先生がみんな全く違う指揮の振り方をしたのに、その振り方に合わせて演奏されていてすごいと思いました。ディズニーメドレーの時、花束贈呈の待機でパーカッションの方々の横で演奏を聞いていた時、ホルンのベルがちょうどこちら側に向けていてホルンの音がよく聞こえました。すごくきれいな音でびっくりしました。コントラバスの男の方がずっと笑顔で演奏されていて、見ている私まで笑顔になれました。トライアングルがすごくきれいに響いていてすごいなと思いました。私は中学からトランペットを始めましたが、ペリのファンファーレをきいて、このくらい上手に吹いてみたいなと思いました。今、下関国際の吹奏楽部はサクソ、トランペット、トロンボーンの3人ですが、3人でもきれいな音で演奏しようと改めて思いました。今回は素敵な経験をさせてくださり本当にありがとうございました。



【生徒感想②】

この度はとても素敵な演奏を聴かせていただきありがとうございます。どれも一度は聴いたことがあるものばかりで、聴いていてすぐに溶け込みました。溶け込んだ先は結婚式だったり、情熱的のところだったり、とても楽しめ、心も落ち着けました。また、初耳だったのはフルートが木管楽器だったことです。私は木管はその名のおり木の楽器だと思い自然とフルートは金管楽器と思っていたからです。

演奏の面ではそれぞれの楽器の音の大小小などが事細かく調整されており、その場の雰囲気がその音の大きさにより再現されて確かに本当に魔法にかけているかの様に感じました。また、音量によって奥行きができ、その世界にひきずりこまれました。ずっと聴いていたくなるような皆様の演奏は聴くことができ本当に良かったと思いました。また指揮者の方の指揮を見ていてとてもわかりやすいもので、入る時のタイミングと終わるときのタイミング、それから音の大きさと大きくする時の合図は簡単で優しいなと思いました。時間が経つのはとても早く先程始まったばかりなのにもう終わってしまったのかとアンコールを聞き驚



いてしまうほど皆様の音楽はとて美しく聞き手を傾聴させ、また癒す力があります。上記の通りとてとばかり書いていますが、とてとは言い表せないほど素晴らしいものでした。指揮を体験できるコーナーでは急に速くしたり遅くしたりする生徒がいましたが嫌という顔もせず、むしろ笑顔で付き合っている姿をみて、自分は申し訳ない気

持ちがありました、きちんとその無茶苦茶なスピードが皆様が追い付けたことに感心いたしました。本日は熱い中お越しくださり、稠密な場所ではありましたがありがとうございました。

本当にこの度は素晴らしい体験をさせていただき心より感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

《補助事業》【吉田豊ジャズコンサート】

華陵高等学校

【生徒感想①】

本日は、華陵高校でジャズコンサートを開いていただきありがとうございました。私はもともと母の影響でジャズが大好きでよく聴いています。だから、今回「吉田豊ジャズコンサート」が行われると聞き、今日の日をとても楽しみにしていました。

私は、ジャズを聴くけど生での演奏を聴いたことがありませんでした。でも、実際生で聴くと、もうかっこよくてかっこよくて、音が体中に響いて、鳥肌が立ちました。「CD と生ではこんなにも違うんだ。すごい。」と思いました。今回、演奏された曲には、私の好きな曲が何曲も演奏されていてとても嬉しかったです。ピアノは普段の優しい音ではなく、強めの音で演奏されたり、サクソはとて音がしぶくてかっこよかったし、ドラムはものすごいスピードと音で私達を夢中にさせたり、バスはとて低い音で聴いていてとて落ち着きました。それぞれの楽器の魅力がすごく伝わりました。また、ジャズの生演奏を聴きたいです。

とてかっこよかったです。幸せな時間をありがとうございました。

【生徒感想②】

本日は、とても楽しい演奏をしていただきありがとうございました。ジャズを生で聴くのは初めてでとてもわくわくしました。吉田さんがおっしゃっていたように音楽を通して会話しているのがよくわかって聴いている私もその会話に参加したような気持ちになりました。このような貴重な体験ができてとて嬉しかったです。普段生活していると意識していないだけでたくさんの場所にジャズがあふれていたのだからこの生活が楽しくなりそうです。



《補助事業》【藤田卓也テノールコンサート】

中村女子高等学校

【生徒感想①】

3年に1度芸術を学ぶということで今回初めての参加でした。中学校でもヴァイオリンなどの楽器演奏は聴く機会がありましたが、歌は今回が初めてといこともあり、とても楽しみにしていました。最初は命についての歌を歌われており、藤田さんの声にのせて、いろいろな感情を表情や声であらわしており、歌がうまいだけでなく、人の感情をずっと変えられる魔法使いのようでした。芸術にもさまざまな種類があることをあらためて教えられた気がします。

ピアノの音に合わせて藤田さんのテノールの歌声も合わせ、1つの素敵なハーモニーが生まれていて、何回でも聴いていく音でした。オペラなども生で初めて聴

いてみて迫力のすごさなど、大人になったらコンサートなどに行ってみたいなと感じました。明るい曲から悲しい曲までたくさんの歌声が聴けて楽しかったです。



【生徒感想②】

初めてテノール歌手の歌声を生で聴きました。映像で見たり聴いたりするよりも、迫力があるのはもちろんですが、顔の表情、口の動き、1つ1つの言葉の発音、息の吸い方などいろいろな角度から見ることができました。私が特に印象が強かったのは、クレッシェンドのかかる部分です。どうしても大きくするにつて息が続かないということを私は何度の経験したことがありますが、藤田さんの口元をよく見ると、はじめは口を小さく開け、音を大きくしていくと同時に口も大きくしていることが分かりました。普段なにげなく歌っている歌ですが、しっかりプロの方の歌を聴いて奥深さを感じました。私は音楽が大好きですが、それよりももっと好きになることができました。そして歌や声の出し方にも

興味を持つことができました。そしてピアノ演奏も滑らかで前のめりになって聴き入ってしまいました。とても美しい音色に感動しました。



《補助事業》【藤田卓也テノールコンサート】

光丘高等学校

【生徒感想①】

今日の演奏を聴いてみて、オペラというあまり聞かない演奏を一番前の席で聴くことができよかったです。また、低くて、会場全体に響く声がとてもきれいで、びっくりしました。そして、岩佐さんのピアノは、1つ1つの音を丁寧に弾いていて、聴いていて自分のこのような風に1つ1つを丁寧に弾いてみたいなと思いました。また、歌とピアノがすごく合っていて、私たちのためにすごく練習してくださったんだなと思いました。あと、一度だけステージから降りてきたときに、近くで聴いてみて、すごく声が大きく、すごく伸ばしているのに、次の音には問題ないかのように歌っていてすごく感動しました。ピアノ独奏の時には、私は指の動きはまったく見えなかったけど、聴いているだけでもすごく指を動かしているのではないかと分かりました。また、その時に、次の音を出すときに、前の音に気を取られず、しっかり指があがっているんだなと思いました。また、姿勢がすごくよくて、見とれるくらいよかったです。

【生徒感想②】

この度は、私たちにこのような機会を与えてくださり、本当にありがとうございました。小学校の頃から学校で、演奏であったり、劇は見たことはありましたが、オペラを見るのは初めてで数日前からとてもわくわくしていました。今回、歌っていただいた曲の中で、特に素敵だったのは、一番初めに歌われていた曲です。藤田さんからの私たちに当てたメッセージ性と曲調がとっても心に響きました。かんぴょうやあんこまんなど、笑いが出る歌も、どこかかっこよく

歌っていらしたのが、ギャップがあって面白かったです。オーソレ・ミオも、私は音楽を選択しているわけではないけど、友達が練習しているのを聴いたりしていたので、とても親近感が湧きました。今まで、オペラに全然興味を向けたことはなかったけど、今回の機会から見てみようと思います。素敵なコンサートを本当にありがとうございました。藤田さんからもらったパワーをもとにこれからも頑張ります。

【生徒感想③】

私が今まで誰かの演奏だったり、歌声だったり、聴いてきたことは何回もありますが、今回のようにホール席に座って、調律されているピアノの音と共にプロの方の歌声を聴くというのはなかなかないことであり、多くのことを感じました。

一つ一つの歌に、作詞家さんの思いが込められていたり、主人公がいたり、一曲一曲がとても深いのだと感じました。また、外国の曲で何を言っているのか理解できなくても、その声と音を聴いていると何だか分かるような気がしてきて、一曲一曲にとっても入り込んでしまう自分がいました。

また、藤田さんも岩佐さんの表現力が素晴らしく、目が離せませんでした。観ている人に笑顔を与えたり、落ち着きを与えたり、音楽は素敵なものだ改めて感じることできた一日でした。そして、お二人がそういう活動をしてもらえることが素敵だなと思いました。私には夢があります。その夢を叶えるために日々努力していますが、逃げ出したくなったり辞めてしまいたくなったり、その度に頑張らなくなち

やって自分自身の背中を押して、そんな日々の繰り返しですが、お二人のコンサートを聴きながらやっぱり頑張ろうと思いました。私もいつか夢を叶えて誰かに笑顔や感動を与えたいです。

今日は本当にありがとうございました。あんこまパン作ってみます。

【生徒感想④】

今回の公演を鑑賞して思い出した本があります。「羊と鋼の森」という本で、調律師の主人公とピアノの物語です。先生が「このピアノはプロの調律師が調律したピアノで…」と言っていたので、一番聴こえ方がいい席で聴い

てみたいなと思いました。それでも洗練されたピアノを、繊細な手つきで弾かれる岩佐さんの音は美しかったです。

そのピアノの音に一切のにごりなく溶け入るように耳に入ってくる藤田さんの歌声もまた別格でした。「あんこまパン」や「かんぴょう」といったクスッと笑える選曲から、物語のある力強い歌など、振り幅の広さについていくのに必死になってしまいました。世界観に引き付けられるステージでも楽しかったです。また、マイクを使わずにあそこまで声を上げられるのかと圧倒されました。演劇部に入って3カ月程経ちましたが、まだまだ声に圧が足りないと感じるので、私も頑張りたいです。

素敵なコンサートをありがとうございました。

《補助事業》【藤田卓也テノールコンサート】

山口中央高等学校

【生徒感想①】

私は小さい頃からピアノを習っていて、中学校では合唱団に入っており、ピアノを弾くことと歌をうたうことが好きなので、今日のコンサートでは、歌声にもピアノにも興味を持って聴くことができました。オペラは、私たち高校生からしたら身近なものではないかもしれませんが、今日藤田さんの歌声を聴いて、1つ1つの言葉をはっきりと伝わるように歌っていたり、サ行なの子音をしっかり聴こえるように歌っていたり、場面1つ1つに込められた思いや感情が、抑揚で、表情で、身振り手振りで、歌で表現しているなど、たくさんことに気づくことができました。また、ピアノもすごくきれいで、自分も弾いてことのある曲もあったのですが、自分とは当たり前ですがレベルが違うなと感じました。これから将来教育の道に進むにあたって、ピアノをまた練習すると思いますが、今日のピアノの表現の仕方を思い出して、練習をしていきたいと思えます。受験勉強で疲れた私の心の癒しになりました。やはり音楽の力はすごいと感じました。



【生徒感想②】

私はオーケストラ部に入部しており、演奏させていただいたのですが、いつも楽器だけで演奏する時よりも曲に感情を込めることができたように感じました。このように感情を上手くのせることができたのは、藤田さんの感情ののせ方に影響されたからだと思います。私は「カタリ・カタリ」や「オー・ソレミオ」などの数曲は聴いたことがありました。しかし、私が聴いたことのある人とは曲の捉え方、歌い方など細かい部分が違っており、それぞれの良さというものを感ずることができました。また、オペラのレクチャーや曲と曲の合間にする曲の説明などを聞き、曲にも色々な種類のものがあり、感情の入れ方1つでも多くのことを考えながら歌っているのだということがしっかりと伝わってきました。私はこれまでオペラなどはかたくてあまり自分から聴くことはありませんでした。しかし、今日の藤田さんのテノールコンサートを見させていただき、オペラの世界、歌の世界というのは私が思っているよりもずっと奥の深いものであり、私たちにとっても身近なものであるかもしれないと感じました。今後は聴いたことのないオペラや曲などにも関心を持ち、聴いてみたいと思います。



山口県高等学校文化連盟自主事業・補助事業実施校一覧 No.1

数字は実施年度(62～63は昭和、1～30は平成)、※は今年度実施予定、(定)は定時制、(分)は分校

番号		自主事業					補助事業
		青少年劇場小公演	山口県交響楽団	巡回演劇教室			
				劇団のんた	宇部芸術座	下関海峡座	
1	周防大島 安下庄校舎	63, 7, 25	4, 10	10, 21, 28			26, 27
	久賀校舎	63	3				
2	岩国	1					
	坂上分校	63, 11	5, 26	3			
	広瀬分校	63, 14, 21	17	20, 26			
3	岩国総合	1, 30	11				
4	高森		2				
5	岩国商業	3		62, 15			
	定時制東分校						
6	岩国工業		2	6, 8			
7	柳井		7	11, 29			19
8	柳井商工		11, 14	1, 4, 11, 14, 27			
9	熊毛南	63, 19(分), 27, R1	6, 17	12, 24			20, 26, 28, 30
10	田布施農工	15(分), 18(分)	3, 18, 20, 27	5, 24	16		22
11	光	63, 20(定)	8, 23	17			21, 29
12	光丘		8, 11		14		28, R1
13	下松	63, 7, 12	15				
14	華陵	63	8	1			R1
15	下松工業		1				
16	熊毛北		2, 14	63, 7	R1		
17	徳山	4(定), 8(定), 10(定)	15		12		
	徳山北分校	63, 21	4, 11	8			20
	鹿野分校	3, 10	9	1, 16			
18	新南陽	63	22	25	5	14	19
19	徳山商工	63, 1, 5		3, 4	7		
20	南陽工業	1, R1	62				
21	防府						23
	佐波分校	63, 7	27	R1			
22	防府西	1	10				
23	防府商工	63(定), 1	12, 30			6	
24	山口	62(定), 15(定), 16(定)	2				27
	徳佐分校	63(分), 25, 27	63, 10, 20	13			
25	山口中央	63, 10, 12, 13					22, R1
26	西京	62	4		7		R1
27	山口農業		5, 21		3	24	29
28	宇部	63					
29	宇部中央	1(定), 14(定)	10, 19		63, 26	30	23
30	宇部西		14, 28		10, 23		26, 27, 30
31	宇部商業	63	62, 6		3		
32	宇部工業	2, 13	8				
33	小野田	63(定), 19(定)			22, 27(定)	25	
34	厚狭	1	15, 21			9, 18	28
35	小野田工業	63(定)				4	
36	美祢青嶺	4, 22	63		17, 20, 29	10	
37	田部		1, 13		18	20	
38	西市		63	22		27	23

山口県高等学校文化連盟自主事業・補助事業実施校一覧 No.2

数字は実施年度(62～63は昭和、1～30は平成)、※は今年度実施予定、(定)は定時制、(分)は分校

番号		自主事業					補助事業
		青少年劇場小公演	山口県交響楽団	巡回演劇教室			
				劇団のんた	宇部芸術座	下関海峽座	
39	豊浦						
40	長府	1					26, 30
41	下関西						19, 28, 29(定)
42	下関南	22					
43	響	5	1				
44	下関北・豊北	62	3, 28			15, 22, 29	30
45	下関工科	62, 28	12, 25, 29			2, 6, R1	19, 20, 22
46	大津緑洋 大津校舎	63	12		5		
	日置校舎	63, 5, 9, 15	19		25	2, 13, 23	22
	水産校舎		12				
47	萩	63	3			6	24
	奈古分校	11, 17	1, 9, 24			26	
48	萩商工	63	6, 7, 16	23	9	2, 4, 12, 17	
49	下関中等教育				5		
50	岩国総合支援	3, 13, 16, 30	24	10, 19			
51	田布施総合支援	6, 17	62	30			
52	周南総合支援	15, 17, 20					
53	徳山総合支援	1, 11					
54	防府総合支援	62, 63, 3, 12, 26, 28	16				
55	山口南総合支援						
56	山口総合支援	19	14				
57	宇部総合支援	63, 5, 14	1, 9	18			
58	下関南総合支援	63, 3, 8, 10, 16	7, 25			1	
59	下関総合支援	2, 6	16				
60	豊浦総合支援	11, 13, 16, 23, 29	26			19, 21	20, 27
61	萩総合支援	6, 24					
62	下関商業	14(定)					
63	高水			62			
64	柳井学園	6		63			
65	聖光		2, 30				
66	山口県桜ヶ丘		R1				
67	誠英				7	9	
68	高川学園						
69	中村女子	63	2, 5, 22		11	16	R1
70	野田学園	63	18				
71	山口県鴻城		10, 29		12, 15		
72	宇部鴻城		7		9		
73	慶進	29	23		30		21
74	成進						
75	宇部フロンティア香川		1, 5, 15		11, 19, 28		
76	サビエル						
77	下関国際		R1				
78	梅光学院						
79	早鞆						
80	下関短期大学付属	62, 63, 4, 7, 24, 26			8	28	
81	長門		6				
82	萩光塩学院						

令和元年度 山口県高等学校文化連盟 事業報告

月	日	事業	会場
4	11	会計監査	山口中央高校
	18	第1回企画運営委員会	山口中央高校
5	10	評議員会	山口市：セントコア山口
	17	第41回県総文祭総開会式・音楽4部門発表会 第1回実行委員会 平成30年度集録「高文連」発行	宇都市渡辺翁記念会館
	21	公益社団法人全国高等学校文化連盟地区代表者会議	東京：アイビーホール
	21	公益社団法人全国高等学校文化連盟定時総会	東京：アイビーホール
	25	専門部研修合唱講習会	山口市民会館小ホール
	25～	26 県高校総文祭文化祭「将棋部門」(主管：徳山高校)	防府市文化福祉会館
	26	26 県高校総文祭文化祭「小倉百人一首かるた部門」(主管：長府高校)	小野田高校 武道場
	6	3 自主事業「山口県交響楽団演奏会」 6 山口県文化連盟 総会・文化交流パーティー 10 自主事業 巡回演劇「劇団のんた」 13 第41回県高校総文祭総開会式(主管：小野田高校)	下関国際高校 山口市：ホテルニュータナカ 防府高校佐波分校(会場：徳地文化ホール) 宇都市渡辺翁記念会館
14～	15	15 県高校総文祭音楽4部門発表会(主管：宇部西高校・宇部支部)	宇都市渡辺翁記念会館
	15	15 県高校総文祭「日本音楽部門」(主管：早鞆高校)	下関市菊川ふれあい会館 アブニール
	28	28 第2回中国地区高等学校文化連盟 理事会及び関係者合同会議	山口県山口市：山口グランドホテル
	7	11 補助事業「藤田卓也テノールコンサート」 19～21 第41回全国高等学校小倉百人一首かるた選手権大会 27～1 (公社) 全国高等学校文化連盟各専門部会 27～1 第43回全国高等学校総文祭 28 (公社) 全国高等学校文化連盟加盟団体代表者会議	光丘高校(会場：光市民ホール) 滋賀県 大津市 近江神宮 佐賀県 佐賀県(総開会式 佐賀市：佐賀市文化会館) 佐賀県：佐賀市
8	24～25	第41回県総文祭総開会式・音楽4部門発表会 第2回実行委員会 第30回全国高等学校総文祭優秀校東京公演	小野田高校 東京：国立劇場大劇場
	9		
10	11	11 県高校総文祭「文芸部門」(主管：西京高校)	西京高校
	20	20 県高校総文祭「囲碁部門」(主管：下関西高校)	下関西高校
	25	25 自主事業 巡回演劇「劇団海峡座」	下関工科高校
	26～	26 県高等学校総文祭文化祭「演劇部門」(主管：光丘高校)	シンフォニア岩国
	30	30 自主事業 青少年劇場小公演 音楽世界旅行 ピアノとヴァイオリンのコンサート	熊毛南高校
	30	30 自主事業「山口県交響楽団演奏会」	山口県桜ヶ丘高校
11	1	1 自主事業 巡回演劇「宇部芸術座」	熊毛北高校
	2～	2～3 県高校総文祭「書道部門」(主管：宇部西高校)	おのだサンパーク
	9	9 県高校総文祭「放送部門」(主管：徳山高校)	ニューメディアプラザ山口
	9	9 第21回高校生文芸道場中国ブロック大会	広島県福山市：まなびの館ローズコム
	9～10	9～10 第22回中国地区高等学校小倉百人一首かるた大会	鳥取県大山町：大山町保健福祉センター
	9～10	9～10 山口県中学校文化連盟第15回総合文化祭祭典大会	美祿市市民会館
	15～	15～17 補助事業「藤田卓也テノールコンサート」	山口中央高校
	15～	15～17 県高校総文祭文化祭「写真部門」(主管：防府高校)	新南陽ふれあいセンター
	15～	15～17 県高校総文祭文化祭「美術・工芸部門」(主管：宇部フロンティア大学付属香川高)	宇都市文化会館
	21	21 第1回専門部理事長会	山口中央高校
	25	25 補助事業「吉田豊ジャズコンサート」	華陵高校
26	26 補助事業「吉田豊ジャズコンサート」	西京高校	
27	27 自主事業 青少年劇場小公演 話の伝統芸能「落語」	南陽工業高校	
12	5～6	5～6 第31回全国高等学校文化連盟研究大会(山形大会)	山形県山形市：山形テルサ
	6	6 全国高等学校文化連盟実務担当者会議	山形県山形市：ホテルメトロポリタン山形
	13	13 補助事業「藤田卓也テノールコンサート」	中村女子高校
	14～15	14～15 第18回中国地区高等学校将棋選手権大会	島根県松江市：島根県民会館
	21～22	21～22 第57回中国地区高等学校演劇発表会	島根県松江市：島根県民会館中ホール
21～22	21～22 第23回中国高等学校囲碁選手権大会	岡山県岡山市：山陽新聞本社ビル	
1		山口県中文連・高文連合同調査研究打ち合わせ会	山口中央高校または大殿中学校
	22	22 第2回専門部理事長会	山口中央高校
2	1～2	1～2 第5回中国地区高等学校放送コンテスト	鳥取県米子市：米子市文化ホール
	6～8	6～8 第28回全国高等学校将棋新人大会	福島県福島市：匠のこころ吉川屋
	17	17 第2回企画運営委員会	山口中央高校
3	13	平成31年度中国地区高文連実務担当者会議	山口県山口市：山口県立山口中央高等学校
	26	26 第39回山口県高等学校 器楽・管弦楽スプリングコンサート(主管：下関南高校)	下関市：下関市生涯学習プラザ海のホール (中止)
	29	29 エンゲルハート・ホトトリノガ講習会	山口県鴻城高等学校 (中止)
【その他】		各専門部会………部会長校を中心に開催予定 各専門部研修会…県下各地において開催予定 ※巡回演劇教室3公演、巡回音楽教室(山響)2公演、青少年劇場小公演2公演 ※補助事業5公演	

令和元年度 山口県高等学校文化連盟会計決算書

平成31年度 山口県高等学校文化連盟会計決算書

収入総額	26,308,526円
支出総額	19,855,487円
差引残高	6,453,039円 (次年度繰越金)

収入の部		(単位:円)			
区分	予算額	決算額	増減額(減△)	摘要	
繰越金	4,056,468	4,056,468	0		
加盟費	19,713,000	19,642,100	△ 70,900		
内訳	全日制	19,653,000	19,578,600	△ 74,400	600円×32,631人(前年度より843人減)
	定時制・総合支援	60,000	63,500	3,500	50円×1,270人(前年度より20人増)
補助金	3,715,000	2,609,953	△ 1,105,047	山口県より	
内訳	県総文祭	1,020,000	1,020,000	0	主催 宇部小野田地区
	全国総文祭	2,695,000	1,589,953	△ 1,105,047	主催 佐賀県
調整基金から繰入	0	0	0		
雑収入	532	5	△ 527	利息等	
合計	27,485,000	26,308,526	△ 1,176,474		

支出の部		(単位:円)			
区分	予算額	決算額	残額(超過△)	摘要	
運営費	1,771,400	1,471,707	299,693		
内訳	事務費	490,000	487,833	2,167	記念品 事務機器維持費 事務消耗品費 HP維持管理費等
	通信費	260,000	177,549	82,451	振込手数料 電話 郵便 運送料等
	分担金	521,400	521,400	0	全国高文連会費 賛助会費 中国高文連分担金 県文連会費
	賃金	500,000	284,925	215,075	事務補助賃金
会議費	1,850,000	1,315,587	534,413		
内訳	会議費	350,000	306,247	43,753	大会参加費 委員会・理事会旅費 役員保険料 会議用お茶代等
	旅費	1,500,000	1,009,340	490,660	全国会議(佐賀) 中国地区会議(山口) 研究大会(福島) 県内視察 県総文祭次年度準備委員会旅費
事業費	15,636,263	13,008,793	2,627,470		
内訳	県総文祭	6,999,563	6,135,320	864,243	総合開会式及び各部門大会開催費
	全総文祭	3,900,000	2,546,404	1,353,596	生徒旅費補助 引率旅費補助 運搬費
	自主事業	1,924,000	1,924,000	0	自主事業7公演 補助事業5公演
	大会補助金	50,000	50,000	0	特別支援学校文化祭
	専門部会費	2,522,700	2,122,583	400,117	研修費 全国分担金 役員旅費・保険料等
	印刷費	190,000	188,136	1,864	集録 県総文誌等
	中高連携費	50,000	42,350	7,650	中高文連交流事業
調整基金	4,000,000	4,000,000	0		
予備費	4,227,337	59,400	4,167,937	県総文祭 グランドピアノ修理費	
合計	27,485,000	19,855,487	7,629,513		

平成31年度 調整基金会計決算書

(単位:円)

前年度繰越	一般会計より繰入	今年度末残高
0	4,000,000	4,000,000

上記の通り相違ありません

令和2年 4月 9日

監事

監事

原井 遼

藤村 慎一郎

令和2年度 山口県高等学校文化連盟 事業計画

月	日	事業	会場
4	13	会計監査	山口中央高校
	15	第1回企画運営委員会	山口中央高校
5	8	評議員会	山口市：セントコア山口
	18	第42回県総文祭総合開会式・音楽4部門発表会 第1回実行委員会 令和元年度集録「高文連」発行	下関市民会館
	19	公益社団法人全国高等学校文化連盟地区代表者会議	東京：アイビーホール
	19	公益社団法人全国高等学校文化連盟定時総会	東京：アイビーホール
	20	自主事業 巡回演劇「宇部芸術座」	宇部フロンティア大学付属香川高校
	23～24	県高校総合文化祭「将棋部門」(主管：下関西高校)	防府市文化福祉会館
30	県高校総合文化祭「小倉百人一首かるた部門」(主管：慶進高校)	小野田高校 武道場	
6	6	専門部研修合唱講習会	山口県教育会館
	9	山口県文化連盟 総会・文化交流パーティー	山口市：ホテルニュータナカ
	9	自主事業 巡回演劇「劇団海峡座」	下関国際高校
	18	第42回県高校総合文化祭総合開会式(主管：下関南高校・下関中等教育学校)	下関市民会館
	19～20	県高校総合文化祭音楽4部門発表会(主管：下関西高校・下関工科高校・下関支	下関市民会館
	20	県高校総合文化祭「日本音楽部門」(主管：柳井高校)	サンビームやない
	26	第30回中国地区高等学校文化連盟 理事会及び関係者合同会議	山口県下関市：下関グランドホテル
30	自主事業「山口県交響楽団演奏会」	田布施総合支援学校	
7	24～26	第42回全国高等学校小倉百人一首かるた選手権大会	滋賀県 大津市 近江神宮
	31～6	(公社)全国高等学校文化連盟各専門部会	高知県
	31～6	第44回全国高等学校総合文化祭	高知県(総合開会式 高知市：高知市文化プラザかるぼーと)
8	1	(公社)全国高等学校文化連盟加盟団体代表者会議	高知県：高知市
	29～30	第42回県総文祭総合開会式・音楽4部門発表会 第2回実行委員会 第31回全国高等学校総合文化祭優秀校東京公演	東京：国立劇場大劇場
9	13	中国地区高等学校小倉百人一首かるた大会山口県予選会(主管：長府高校)	小野田高校 武道場
10	9	県高校総合文化祭「文芸部門」(主管：宇部高校)	宇部高校
	9	自主事業 青少年劇場小公演 邦楽「しゃみせんいろい」	下関南総合支援学校
	18	県高校総合文化祭「囲碁部門」(主管：宇部高校)	宇部高校
	19	補助事業「吉田豊ジャズコンサート」	宇部西高校
	20	補助事業「吉田豊ジャズコンサート」	小野田高校
	21	自主事業 巡回演劇「劇団のんた」	美祢青嶺高校
	24～25	県高等学校総合文化祭「演劇部門」(主管：長府高校)	下関市民会館
	28	自主事業「山口県交響楽団演奏会」	山口中央高校
31～1	県高校総合文化祭「書道部門」(主管：長府高校)	おのだサンパーク	
11	6～8	県高校総合文化祭「写真部門」(主管：防府高校)	新南陽ふれあいセンター
	7～8	第23回中国地区高等学校小倉百人一首かるた大会	岡山県倉敷市：児島武道館
	7～8	山口県中学校文化連盟第16回総合文化祭 防府大会	防府市公会堂
	8	県高校総合文化祭「放送部門」(主管：徳山高校)	ニューメディアプラザ山口
	12	補助事業「藤田卓也テノールコンサート」	光高校
	13	補助事業「藤田卓也テノールコンサート」	熊毛南高校
	13～15	県高校総合文化祭「美術・工芸部門」(主管：高水高校)	シンフォニア岩国
	14	第22回高校生文芸道場中国ブロック大会	山口県：山口県立下関西高等学校セミナーハウス
	17	自主事業 青少年劇場小公演 話の伝統芸能「落語」	慶進高校
	19	第1回専門部理事長会	山口中央高校
19	補助事業「藤田卓也テノールコンサート」	熊毛北高校	
12	3～4	第32回全国高等学校文化連盟研究大会(新潟大会)	新潟県新潟市：朱鷺メッセ
	4	全国高等学校文化連盟実務担当者会議	新潟県新潟市：朱鷺メッセ
	19～20	第19回中国地区高等学校将棋選手権大会	山口県周南市：周南市立図書館
	19～20	第58回中国地区高等学校演劇発表会	岡山県岡山市：岡山市立市民文化ホール
	19～20	第24回中国高等学校囲碁選手権大会	鳥取県倉吉市：倉吉体育文化会館
1		山口県中文連・高文連合同調査研究打ち合わせ会	山口中央高校または大観中学校
		第2回専門部理事長会	山口中央高校
	28～30	第29回全国高等学校将棋新人大会	兵庫県尼崎市：
30～31	第6回中国地区高等学校放送コンテスト	岡山県倉敷市：倉敷市芸文館	
2		第2回企画運営委員会	山口中央高校
3	17	令和2年度中国地区高文連実務担当者会議	山口県山口市：山口県立山口中央高等学校
	25	マーチングバンド・ハートリング講習会 第39回山口県高等学校 器楽・管弦楽スプリングコンサート(主管：防府高校)	防府市：防府市地域交流センター アスピラート
【その他】		各専門部会………部会長校を中心に開催予定 各専門部研修会…県下各地において開催予定 ※巡回演劇教室3公演、巡回音楽教室(山響)2公演、青少年劇場小公演2公演 ※補助事業5公演	

令和2年度 山口県高等学校文化連盟 会計予算書・調整基金会計予算書

令和2年度 山口県高等学校文化連盟会計予算書

収入総額	29,196,639円
支出総額	29,196,639円

(単位：円)

収入の部					
区 分		予 算 額	前年度予算額	増減額 (減△)	摘 要
繰越金		6,453,039	4,056,468	2,396,571	
加盟費		19,028,500	19,713,000	△ 684,500	
内 訳	全 日 制 定時制・ 総合支援学校	18,966,000	19,653,000	△ 687,000	600円×31,610人
		62,500	60,000	2,500	50円×1250人
補助金		3,715,000	3,715,000	0	山口県より
内 訳	県 総 文 祭	1,213,000	1,020,000	193,000	主催 下関地区
	全国総文祭	2,502,000	2,695,000	△ 193,000	主催 高知県
調整基金から繰入		0	0	0	
雑収入		100	532	△ 432	利息等
合 計		29,196,639	27,485,000	1,711,639	

支出の部					
区 分		予 算 額	前年度予算額	増減額 (減△)	摘 要
運営費		2,380,600	1,771,400	609,200	
内 訳	事 務 費	600,000	490,000	110,000	記念品 事務機器維持費 消耗品費 パソコン HP管理費等 県総文パネル
	通 信 費	260,000	260,000	0	振込手数料 電話 郵便 送料等 サーバー代
	分 担 金	520,600	521,400	△ 800	全国高文連会費 賛助会費 中国高文連分担金 県文連会費
	賃 金	1,000,000	500,000	500,000	事務補助賃金
会議費		2,070,000	1,850,000	220,000	
内 訳	会 議 費	370,000	350,000	20,000	企画運営委員会・理事長会旅費 大会参加費 役員保険料 会議用茶等
	旅 費	1,700,000	1,500,000	200,000	全国会議(高知) 中国地区会議(山口) 研究大会(新潟) 県内視察 県総文祭準備委員会
事業費		17,026,466	15,636,263	1,390,203	
内 訳	県 総 文 祭	7,252,466	6,999,563	252,903	総合開会式 各部門大会開催費
	全 総 文 祭	4,610,000	3,900,000	710,000	生徒旅費補助 引率旅費補助 運搬費 参加負担金
	自 主 事 業	1,924,000	1,924,000	0	自主事業7公演 補助事業5公演
	大会補助金	250,000	50,000	200,000	特別支援学校文化祭 中国大会補助金(将棋、文芸)
	専門部会費	2,750,000	2,522,700	227,300	研修費 全国分担金 役員旅費・保険等
	印 刷 費	190,000	190,000	0	集録 県総文ポスター HP紹介チラシ A4封筒
	中高連携費	50,000	50,000	0	中高文連交流事業
調整基金		4,000,000	4,000,000	0	
予備費		3,719,573	4,227,337	△ 507,764	
合 計		29,196,639	27,485,000	1,711,639	

令和2年度 2028全国高等学校総合文化祭 基金予算書

前年度繰越	一般会計から繰入	今年度末残高
0	4,000,000	4,000,000

令和2年度 調整基金会計予算書

前年度繰越	一般会計から繰入	今年度末残高
4,000,000	0	4,000,000

山口県高等学校文化連盟規約

第1章 総 則

(名 称)

第1条 この連盟は、山口県高等学校文化連盟と称する。

(事務局)

第2条 本連盟の事務局を山口市宮島町6番1号山口中央高等学校に置く。

(目 的)

第3条 この連盟は、高等学校における生徒の創造活動の向上充実を図り、文化活動の健全な発展と芸術文化の振興に資することを目的とする。

(事 業)

第4条 この連盟は、前条の目的を達成するために、次に掲げる事業を行う。

- (1) 山口県内の高等学校による文化活動行事の開催に関する事業。
- (2) 全国高等学校文化連盟が主催する行事への派遣に関する事業。
- (3) 芸術文化に関する研修会、講習会、鑑賞会、講演会等の開催に関する
- (4) 高等学校等の文化活動に関する調査研究事業。
- (5) 高等学校による文化活動の国際交流に関する事業。
- (6) その他前条の目的の達成に必要な事業。

(組 織)

第5条 この連盟は、山口県内の公立及び私立すべての高等学校(中等教育学校後期課程を含む。以下、「高等学校」という。)並びに高等部を設置している特別支援学校をもって組織する。

- 2 山口県内を七つの地域に分け、地域ごとに連合体を組織することができる。この場合において、地域の区分は、山口県高等学校校長会の区分と同じものとする。

第6条 この連盟に、次の専門部を置く。

- 2 演劇、器楽・管弦楽、合唱、吹奏楽、マーチングバンド・バトントワリング、日本音楽、吟詠剣詩舞、美術・工芸、書道、写真、囲碁、将棋、放送、文芸、自然科学、小倉百人一首かるたの各部門とする。

第2章 役 員

(役 員)

第7条 この連盟に次の役員を置く。

- | | |
|------------|---------|
| (1) 会 長 | 1人 |
| (2) 副会長 | 若干人 |
| (3) 評議員 | 各加盟校に1人 |
| (4) 支部長 | 7人 |
| (5) 専門部会長 | 16人 |
| (6) 専門部理事長 | 16人 |
| (7) 監 事 | 2人 |
| (8) 参 与 | 若干人 |

(役員を選出)

第8条 役員を選出は、次のとおりとする。

- (1) 会長及び副会長は、評議員の互選により選出する。
 - (2) 評議員は、加盟校の校長をもって充てる。
 - (3) 支部長・専門部会長・専門部理事長は、各地域及び専門部の推薦に基づき、会長が委嘱する。
 - (4) 監事及び参与は評議員会の推薦に基づき、会長が委嘱する。
- 2 役員兼任は妨げない。

(役員職務)

第9条 役員職務は、次のとおりとする。

- (1) 会長は、この連盟を代表し、会務を統括する。
- (2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は会長が欠けたときはその職務を行う。
- (3) 評議員は、評議員会に出席し、この連盟の事業について審議する。
- (4) 支部長・専門部会長・専門部理事長は、企画運営委員会を構成し、この連盟の会務を審議し執行する。
- (5) 監事は、会計を監査する。
- (6) 参与は会長の諮問に応ずる。

(役員任期)

第10条 役員は高等学校等に在職する者とし、その任期は2年とする、ただし、再任を妨げない。

- 2 役員に欠員が生じたときは、必要に応じて補充する。ただし、任期は前任者の残任期間とする。

第3章 会 議

(会議)

第11条 この連盟の会議は、次に掲げる通りとし、会長が必要に応じてこれを招集する。

- (1) 評議員会
 - (2) 企画運営委員会
 - (3) 理事長会
- 2 会議の議長は、会長がこれに当たる。
 - 3 会議は、構成員の2分の1以上の出席がなければ、開会することができない。
 - 4 会議の議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長がこれを決定する。
 - 5 会議に出席できない構成員は、代理人に表決を委任することができる。この場合において、前2項の規定の適用については、会議に出席したものとみなす。

(評議員会)

第12条 評議員会は、次の事項を審議し決定する。

- (1) 規約の制定及び改廃に関する事項
- (2) 予算及び決算に関する事項
- (3) その他、連盟の運営に係わる重要事項

(企画運営委員会)

第13条 企画運営委員会は、次の事項を審議し、決定する。

- (1) 評議員から委任された事項
 - (2) 会務の運営及び執行に関する事項
 - (3) その他、連盟の運営に係わる軽易な事項
- 2 企画運営委員会に事業の運営及び執行のために委員会を置くことができる。
 - 3 委員会は、事業を主管する学校長を委員長とし、委員として当該事業担当の教職員若干人及び専門教職員をもってこれに充てる。
 - 4 委員会の委員の任命及び委員会議の招集は、委員長が行うことができる。

(理事長会)

第14条 理事長会は、次の事項を審議し、決定する。

- (1) 企画運営委員会から委任された事項
- (2) その他各専門部の運営に係わる事項

第4章 会 計

(経費)

第15条 この連盟の経費は、各高等学校等の加盟費、補助金、寄付金及びその他の収入をもって充てる。

(予算及び決算)

第16条 この連盟の収支予算は、評議員会の決議により定め、収支決算は、会計年度終了後、監事の監査を経て次の評議員会でその承認を得なければならない。

(会計年度)

第17条 この連盟の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(会計経理)

第18条 この連盟の会計経理の手続きについては、企画運営委員会の議決を経て、別に定める。

第5章 事務局

(事務局)

第19条 この連盟の事務を処理するため、事務局を置く。

(運営)

第20条 事務局の運営に関しては、企画運営委員会の議決を経て、別に定める。

第6章 雑 則

第21条 この連盟の規約の施行について必要な事項は、評議員会の議決を経て、別に定める。

附 則

この規約は、昭和62年4月1日から施行する。

昭和62年4月 1日制定
平成 元年4月 1日改正
平成 2年4月 1日改正
平成 3年4月 1日改正
平成 4年4月 1日改正
平成 6年4月 1日改正
平成 8年4月 1日改正
平成 9年4月 1日改正
平成15年4月 1日改正
平成16年4月 1日改正
平成18年4月 1日改正
平成20年4月 1日改正
平成21年4月 1日改正
平成22年4月 1日改正
平成23年5月 6日改正
平成25年5月10日改正

山口県高等学校文化連盟諸規程

[会 計 規 程]

- 第1条 この規定は、山口県高等学校文化連盟規約に基づき、会計経理に関し必要な事項を定めるものとする。
- 第2条 すべての収入、支出は予算に計上しなければならない。
- 第3条 会長は、収支予算書及び事業計画書の案を作成し、これを評議員会に提出しなければならない。
- 第4条 会計経理は、収入科目、支出科目及び整理科目を設けて経理の整理をし、現金及び預金出納簿を備え全ての経理内容を記入するものとする。
- 第5条 会長は、決算報告書について、監事の監査を受けた後、これを評議員会に提出しなければならない。
- 第6条 各高等学校は、毎年5月31日までに、加盟費を納入するものとする。

各在籍生徒数に以下の金額を乗じたもの。但し、在籍生徒数は当該年度5月1日現在とする。

(全日制生徒)	600円
(定時制、特別支援学校高等部生徒)	50円

- 第7条 この規程の執行に関し必要な事項は、会長が定める。

附 則

この規程は、昭和62年4月1日から実施する。

昭和62年4月1日制定
平成4年4月1日改正
平成5年4月1日改正
平成8年4月1日改正
平成20年4月1日改正
平成23年5月6日改正
平成31年4月1日改正

[事 務 局 規 程]

- 第1条 この規程は、山口県高等学校文化連盟規約に基づき、事務局の運営に関し必要事項を定めるものとする。
- 第2条 事務局に次の職員を置く。
(1) 事務局長
(2) 事務局員 ア 事務局次長 イ 総務係 ウ 会計係
- 第3条 事務局長は、会長の命を受け、事務局の事務を統括する。
- 第4条 事務局次長は、事務局長を補佐する。
- 第5条 事務局総務係は、事務局長の命を受け、総務・企画・文書等に関する事項を分掌する。
- 第6条 事務局員会計係は、事務局長の命を受け、会計に関する事項を分掌する。
- 第7条 事務局の会計に関する規程その他事務処理上必要な諸規程は、別に定める。
- 第8条 その他事務局の細目的事項は、会長が別に定める。
- 第9条 会長が命令する出張等の旅費は、山口県旅費規程に準じて支給する。

附 則

この規程は、昭和62年4月1日から実施する。

昭和62年4月1日制定
昭和62年7月14日改正
平成23年5月6日改正

[表彰規程]

第1条 山口県高等学校文化連盟規約第4条6号に基づく表彰規程を次のように定める。

(表彰の種類)

第2条 本規程に基づく表彰は、次のとおりとする。

- (1) 文化功労賞
- (2) その他、会長及び企画運営委員会が必要と認めたもの

(文化功労賞)

第3条 本賞は、山口県高等学校文化連盟加盟校の生徒であって、当該年度の卒業予定者を対象として授与する。

第4条 受賞人員は在籍生徒数120名に対し1名の割合を原則とする。

第5条 本賞の受賞者の選考は、当該学校に一任する。

第6条 本賞の受賞者の選考基準は、次のとおりとする。

- (1) 人格、識見共に優秀と認める者。
- (2) 芸術文化活動歴が優秀である者、ただし、その活動は学校の内外を問わない。

第7条 各学校は、受賞者を決定し、別記様式(1)により、本連盟事務局あて報告するものとする。

第8条 本賞の授与は、卒業式に関する行事に際し、施行することを原則とする。

(その他、会長及び企画運営委員会が必要と認めた者)

(優秀芸術文化賞)

第9条 本賞は、山口県高等学校文化連盟加盟校の生徒であって、各専門部において、全国大会等で特に優秀な成績をおさめたと認められた個人並びに団体を対象とする。

(功績賞)

第10条 本賞は、山口県高等学校文化連盟加盟校の教職員であって、長年にわたり本連盟の発展に寄与した者を対象とする。表彰は退職する年度または退職後に行う。ただし、専門部理事長を3期6年勤めた者は退任時に表彰することができる。

(優秀指導者賞)

第11条 本賞は、第10条功績賞対象者のうち、全国高等学校総合文化祭表彰規定により表彰された部の指導を行った者を対象とする。

第12条 第9条、第10条、第11条の授賞については、高文連企画運営委員会に諮り、これを決する。本賞の授与は県総文祭の総合開会式で行うことを原則とする。

附 則

この規程は、昭和62年4月1日から施行する。

昭和62年4月 1日制定
昭和62年7月14日改正
平成 元年4月 1日改正
平成 2年4月 1日改正
平成 6年4月 1日改正
平成 8年4月 1日改正
平成15年4月 1日改正
平成18年4月 1日改正
平成24年5月11日改正
平成25年5月10日改正
平成26年5月 9日改正

山口県高等学校文化連盟旅費支給基準

[旅費支給基準]

- 第1条 会長が招集する会議等の旅費は、山口県旅費規程に準じて支給する。
第2条 県総文祭の運営に関する旅費は、委託された主管校から山口県旅費規程に準じて支給する。
第3条 全国高等学校総合文化祭に関する旅費の引率教員は山口県旅費規程に準じて支給する。

生徒は、〔交通費実費（学割・団体割引）＋宿泊費（大会規定料金）×2泊〕×1/3とする。

※新幹線のみで100km以上の場合は特急指定料金を含む。（ただし県内は除く）

※在来線で100km以上の場合は急行または特急指定料金を含む。（ただし県内は除く）

ただし、特殊な事情がある場合はその都度協議し会長が決定する。

[調整基金細則規定]

- 第1条 規約第4条の事業を円滑に遂行し、財務の健全化を図るため調整基金を設ける。
第2条 調整基金の額は、年度予算に計上して積み立てるものとする。
第3条 調整基金に属する現金は、金融機関への預金等最も確実な方法により保管するものとする。
第4条 調整基金は、事業執行上の財源が著しく不足する場合において、当該不足分を補うための財源に充てるときに限り、評議員会の議決によりこれを処分することができる。

附 則

- 1 この規定は、昭和62年4月1日から施行する。
- 2 この細則の施行前の調整基金については、この細則による執行とみなす。

昭和62年4月1日制定
昭和63年4月1日改正
平成元年4月1日改正
平成11年4月1日改正
平成13年4月1日改正
平成16年4月1日改正
平成22年4月1日改正
平成28年5月13日改正

令和元年度 山口県高等学校文化連盟役員

職名	氏名	支部・専門部	所属校
会長 副会長	開地元典 椎原伸彦 高橋 等 岩崎稔生		山口中央高校 徳山高校 柳井高校 中村女子高校
参 与	栗林正和		山口高校
支部長	河口郁史 高橋 等 椎原伸彦 河村 隆 西村和彦 山根敬二 竹村和之	岩国支部 柳井支部 徳山支部 山防支部 宇部支部 下関支部 長北支部	岩国高校 柳井高校 徳山高校 防府高校 宇部高校 下関西高校 萩高校
専門部会長	伊藤隆昌 山田哲也 牛見正彦 國清賢一 國清賢一 前田茂雄 (休部) 高橋 等 山田哲也 河村 隆 山根敬二 椎原伸彦 椎原伸彦 原井 進 西村和彦 土井 浩	演劇部門 器楽・管弦楽部門 合唱部門 吹奏楽部門 マーチングバンド・バントワリング部門 日本音楽部門 吟詠剣詩舞部門 美術・工芸部門 書道部門 写真部門 囲碁部門 将棋部門 放送部門 文芸部門 自然科学部門 小倉百人一首かるた部門	防府西高校 下関南高校 野田学園高校 光高校 光高校 高水高校 (休部) 柳井高校 下関南高校 防府高校 下関西高校 徳山高校 徳山高校 西京高校 宇部高校 小野田高校
専門部理事長	近藤真美 秋本 隆 田中 睦 中村 亮 中村 亮 谷口たかし (休部) 島田憲貢 河合和子 尾崎勝利 高野朝男 弘中敏之 田中祐子 河井昌枝 大田和子 青池のぞみ	演劇部門 器楽・管弦楽部門 合唱部門 吹奏楽部門 マーチングバンド・バントワリング部門 日本音楽部門 吟詠剣詩舞部門 美術・工芸部門 書道部門 写真部門 囲碁部門 将棋部門 放送部門 文芸部門 自然科学部門 小倉百人一首かるた部門	防府西高校 下関南高校 野田学園高校 光高校 光高校 高水高校 (休部) 柳井高校 下関南高校 防府高校 下関西高校 徳山高校 徳山高校 西京高校 宇部高校 小野田高校
監 事	小土井 実 徳重正昭		防府商工高校 山口農業高校
事務局長 事務局次長 事務局員(会計) 事務局員(庶務)	西村正浩 中明聖晴 佐々木靖子 舛井美佐江		山口中央高校 山口中央高校 山口中央高校 嘱託

令和2年度 山口県高等学校文化連盟役員

職名		氏名	所属校
会長		開地元典	山口中央高校
副会長		椎原伸彦	徳山高校
		竹村和之	萩高校
		藤部秀則	宇部フロンティア大学 付属香川高校
参与		木村香織	山口高校
支部長	岩国支部	河口郁史	岩国高校
	柳井支部	高橋 等	柳井高校
	徳山支部	椎原伸彦	徳山高校
	山防支部	小土井 実	防府高校
	宇部支部	辻岡博之	宇部高校
	下関支部	山田哲也	下関西高校
	長北支部	竹村和之	萩高校
監事		藤村慎一郎	防府商工高校
		原井 進	西京高校

専門部

専門部	会長	理事長	所属校
演劇	大田真一	近藤真美	防府西高校
合唱	竹村和之	松屋まなみ	萩高校
吹奏楽	辻岡博之	中村 亮	宇部高校
器楽・管弦楽	宮木由紀子	秋本 隆	下関南高校
日本音楽	前田茂雄	谷口たかし	高水高校
吟詠剣詩舞	休部	休部	休部
マーチングバンド・バトントワリング	辻岡博之	中村 亮	宇部高校
美術・工芸	高橋 等	島田憲貢	柳井高校
書道	宮木由紀子	河合和子	下関南高校
写真	小土井 実	尾崎勝利	防府高校
放送	椎原伸彦	田中祐子	徳山高校
囲碁	辻岡博之	石部 潤	宇部高校
将棋	山田哲也	堀 達也	下関西高校
小倉百人一首かるた	土井 浩	青池のぞみ	小野田高校
文芸	辻岡博之	廣永幸恵	宇部高校
自然科学	木村香織	石田純一	山口高校

事務局

職名	氏名	所属校
事務局長	西村正浩	山口中央高校
事務局員(総務)	渡辺由美子	山口中央高校
事務局員(会計)	佐々木靖子	山口中央高校
事務局員(庶務)	舛井美佐江	嘱託

全国高文連の歌

全国高等学校文化連盟制定
向川 栄美 作詞
乗松 美紀 作曲



1.てをのばせばほら きっと だれかが ささえて くれる
2.よびかければほら きっと だれかが こたえて くれる



みーわ たせー ば ほら なかまが いつでも そばにいる きみ
こころ をひらけ ば ほら なかまは いつでも まっている きみ



は ひとりじゃない さあ あるき だ そ う
は ひとりじゃない さあ は ば た こ う



ぼくらのぶんか を つく る た め ー に
ぼくらのぶんか を つき ず く た め ー に

全国高文連の歌

一、手を伸ばせば ほら

きつと誰かが支えてくれる

見渡せば ほら

仲間がいつでもそばにいる

君は一人じゃない

さあ 歩きだそう

僕等の文化を創るために

二、呼びかければ ほら

きつと誰かが応えてくれる

心を開けば ほら

仲間がいつでも待っている

君は一人じゃない

さあ 翔はばこう

僕等の文化を築くために

山口県高等学校文化連盟

「高文連」編集委員

(各部門)

演	劇	近藤真美	(防府高等学校)
合	唱	田中睦	(野田学園高等学校)
吹奏	楽	中村亮	(光高等学校)
器楽・管弦	楽	秋本隆	(下関南高等学校)
日本音	楽	谷口たかし	(高水高等学校)
マーチングバンド・パトワリング		中村亮	(光高等学校)
美術・工芸		島田憲貢	(柳井高等学校)
書道		河合和子	(下関南高等学校)
写真	真	尾崎勝利	(防府高等学校)
放送		田中祐子	(徳山高等学校)
囲碁		高野朝男	(下関西高等学校)
将棋		弘中敏之	(徳山高等学校)
小倉百人一首かるた		青池のぞみ	(小野田高等学校)
文芸		河井昌枝	(西京高等学校)
自然科学		大田和子	(宇部高等学校)

事務局長	西村正浩	(山口中央高等学校)
事務局次長	中明聖晴	(山口中央高等学校)
事務局員(総務)	佐々木靖子	(山口中央高等学校)
事務局員(庶務)	舛井美佐江	

令和元年度
山口県高等学校文化連盟集録
「高文連」

編集・発行 山口県高等学校文化連盟事務局
〒753-0043 山口市宮島町6-1
山口県立山口中央高等学校内
電話 083-922-0032
FAX 083-932-0813

表紙デザイン／梅本友紀
(サビエル高等学校3年)
題名「彷徨い」

